

目 次

【1年前期・通年】	【1年後期】
保育原理	教育原理
子ども家庭福祉	社会福祉
保育者論	子ども家庭支援の心理学
子どもの心理学	子ども理解の方法
子どもの保健	子どもの食と栄養Ⅱ
子どもの食と栄養Ⅰ	保育・教育課程論
子どもと人間関係	保育内容総論
子どもと言葉	保育内容（造形表現）
子どもと表現	子どもと健康
乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅱ
保育実習指導Ⅰ <通年>	子どもの健康と安全
保育・教育基礎研究Ⅰ	保育実習Ⅰ
音楽表現Ⅰ	幼児体育指導法
音楽表現Ⅱ	保育・教育基礎研究Ⅱ
教育実習指導 <通年>	音楽表現Ⅲ
	教育実習Ⅰ
	レクリエーション理論
	レクリエーション実習

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育原理		豊永 せつ子		1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1201		
		担当教員	豊永 せつ子					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の本質・目的に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育と子ども理解	保育とは、子どもの現在と未来とをつなげる営みで、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る養護と子どもの心身の成長・発達を促し、導いていく教育とが一体となった営みでもある。このことを基盤に「保育原理」では、保育の意義や平成29年改訂の『保育所保育指針』における保育の基本、さらに保育の内容と方法、保育の思想とその史の変遷について理解する。これらのことを踏まえて保育の現状と課題について考察する。						
2	保育の内容							
3	保育の方法							
4	保育の歴史							
5	保育と子育て支援							
【到達目標】		1. 保育とは何か、その基本である意味や意義を理解できる。 2. 保育の場である保育所・幼稚園・認定こども園の保育や役割を理解できる。 3. 保育の歴史を学んだり、保育の今日的課題を考察して自ら望ましい保育観、保育者観を構築できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	受講態度	課題・発表	定期試験	合計				
評価割合 (%)	10	10	80	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。		
【教科書】 『保育原理』 ミネルヴァ書房		
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼稚園教育要領』		
【関連科目】 「保育内容全般」「保育者論」「実習及び実習指導全般」		
【受講心得】 積極的な学習態度で授業に臨むこと。		
【備考】 保育士課程必修 授業の中で、小テストやグループ発表を行います。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 「保育」とは		〈学習内容〉 幼稚園、保育所、認定こども園の成り立ちを説明。 保育について原理的に説明。 〈事前学習〉15回分の講義内容の確認。教科書P2～12を読んでおく（1.0時間） 〈事後学習〉授業内容をまとめ、復習する（1.0時間）
2 保育と子ども理解		〈学習内容〉 乳幼児の主な発達特徴を知り、子ども理解の原理・原則を学ぶ 〈事前学習〉教科書P25～36を下読み（1.0時間） 〈事後学習〉あなたにとって「大切な人」とはどんな人をテーマにレポートを書く 次の授業時に提出（1.0時間）
3 保育の内容		〈学習内容〉 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育、保育要領の 国基準について説明する。 〈事前学習〉教科書P43～63を下読み（1.0時間） 〈事後学習〉授業の復習と教科書P42workをする（1.0時間）
4 保育の方法		〈学習内容〉子どもが中心となる保育の方法について述べ、 一人ひとり大切な子どもを理解する。 〈事前学習〉教科書P66～70を下読みする。（1.0時間） 〈事後学習〉絵本を読み、「子どもに伝えたい心」をレポートに書いて提出（1.0時間）
5 保育の計画と評価		〈学習内容〉保育計画のしくみと評価の重要性と臨機応変の大切さを説明する 〈事前学習〉4回目の授業で配布した保育計画をみておく（1.0時間） 〈事後学習〉月の指導計画をみて、保育者の子どもへの関りについて考える（1.0時間）
6 保育と子育て支援		〈学習内容〉学外学習：福岡市南区おおはしこどもプラザ なぜ、子育て支援なのか。 社会の背景に求められる子育て支援の実際を説明し、その実践を見る 〈事前学習〉教科書P97～100（時間） 〈事後学習〉「子育て支援について考える」をテーマに レポートの作成と提出（1.0時間）

7	保育者の専門性と資質の向上		<p>〈学習内容〉 保育者の専門性に関する法的な位置づけについて理解し、説明することができるようにする。 保育者の職場環境の充実について映像をみて考える</p> <p>〈事前学習〉 教科書P139～150の下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 「私の保育観①」をテーマにレポートを作成・提出 (時間)</p>
8	保育の歴史に学ぶ		<p>〈学習内容〉 保育の思想と歴史的背景について オウエン、フレーベル、モンテッソーリー、マラグッツィ</p> <p>〈事前学習〉 教科書P153～161を下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 教科書P152のworkを考える (1.0時間)</p>
9	多様な子どもの理解と保育		<p>〈学習内容〉 外国籍の子どもの現状と多文化の受け入れを事例を通して配慮すべきことを口述</p> <p>〈事前学習〉 教科書P177～192を下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 自分だったらどのような言葉かけが嬉しいか考えてみる (1.0時間)</p>
10	地域に開かれた保育		<p>〈学習内容〉 学校、地域との連携の必要性を考える 地域との関わり方をエピソードを通して知り、 地域との連携の重要性を口述</p> <p>〈事前学習〉 教科書P197～207の下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 他にどのようなことができるか自分で発想してみる (1.0時間)</p>
11	保育に関わる法律と制度		<p>〈学習内容〉 保育に関連する法律や保育制度の基本について説明</p> <p>〈事前学習〉 教科書P211～224の下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 P210の「赤ちゃんの命と人生をどう守る」を読み考える (1.0時間)</p>
12	保育の実際①		<p>〈学習内容〉 学外授業：こどもの園純真 自分は何に関心があるのか考え、テーマをもって子どもを観察する</p> <p>〈事前学習〉 こどもの園純真をインターネットで検索し、把握しておく (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 子どもの観察をレポートにまとめて、提出。 あなたは子どもの何に関心をもって観察したのか。 子ども理解につなげてみる (1.0時間)</p>
13	保育の実際②		<p>〈学習内容〉 子どもを観察し、考えたことを発表し、聞き手の質問に答える</p> <p>〈事前学習〉 園見学で観察した子どもの姿や、 その姿から垣間見えた子どもの心などをまとめて記述しておく (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 発表者からみえた子どもの姿を、再度思い浮かべ、どのようなかわりが 保育者に求められるか、多様なかわり方を考えてみる。 (1.0時間)</p>
14	保育者の専門性と課題		<p>〈学習内容〉 子どもの発達支援、保護者の家庭支援、地域の子育て支援について 専門的知識や技術を高めていくために、保育者として求められるものや 文部科学省や厚生労働省が検討している事柄などを説明</p> <p>〈事前学習〉 教科書P226～239の下読み (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 「私の保育観②」をレポートにまとめ、提出 (時間)</p>
15	私の保育観		<p>〈学習内容〉 まとめ グループ討議で、保育原理を学んで身につけたことなどを話し合う。 他人の意見をきき、自分の考えを言葉で表現する。 情報を得ることで気持ちを共感、共鳴し、心を豊かにして、 保育の専門性を高めていく</p> <p>〈事前学習〉 過去14回の授業内容を振り返りまとめる (1.0時間)</p> <p>〈事後学習〉 保育に対する考え方を確立していく。また、他の授業との結びつきを 深めてよりよい保育者を目指そうと思う気持ちを抱く (1.0時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭福祉		菅原 亜紀		1	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1203		
		担当教員	菅原 亜紀					

幼	科目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系列	保育の本質・目的に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】
1 子どもの権利	子ども家庭福祉の基盤となる歴史、制度、施策、社会的対応などを学びます。 子どもの権利や子どもへの虐待を中心に、身近なところから子どもを取り巻くさまざまな課題について考えていきます。
2 虐待	
3 児童福祉	
4 子ども	
5 家庭	

【到達目標】
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できる。
2. 子ども家庭福祉の制度や、その現状と課題について理解できる。
3. 子どもの権利擁護について自分の考えを整理し、保育者として何ができるのかを考えることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	提出物および受講態度	合計
評価割合 (%)	60	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内でフィードバックを行う。定期試験に関しては、模範解答とコメントを学生に提示する。		
【教科書】		
『子ども家庭福祉』／直島正樹・河野清志編著 萌文書林		
【参考書・参考資料等】		
『子ども虐待』／西澤哲 講談社 『子どもの貧困』／阿部彩 岩波書店 その他、講義の中で紹介します。		
【関連科目】		
「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」		
【受講心得】		
全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること		
【備考】		
卒業必修・保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 子ども家庭福祉とは		<学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。子ども家庭福祉とはなにか、この授業ではどのようなことを学ぶのか、子どもとは？ということを考える。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2 子ども家庭福祉を取り巻く状況		<学習内容>子ども家庭福祉を取り巻く状況について考える。少子化や子どもを取り巻く福祉の問題などに焦点を当てて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3 子ども家庭福祉の歴史		<学習内容>子ども家庭福祉の歴史について、世界の歴史と日本の歴史を合わせて学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4 子ども家庭福祉の制度と法律		<学習内容>児童福祉法や子どもに関わる法律を中心に、子ども家庭福祉の制度と法律について学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5 子ども家庭福祉にかかわる機関と施設		<学習内容>子ども家庭福祉にかかわる機関と施設について学ぶ。児童福祉施設の種別と役割やどのような専門職が働いているのか、児童相談所の援助についてなどを中心に学ぶ。 <事前学習>教科書を読んでおく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

6	子育て支援 母子保健		<p><学習内容>少子化と子育て支援について、また、母子保健サービスについて学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
7	多様な保育ニーズへの対応		<p><学習内容>子ども家庭福祉にかかわる多様な保育ニーズと保育サービスについて学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
8	社会的養護		<p><学習内容>子どもにかかわるさまざまな問題の中で、社会的養護に焦点を当てて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
9	障害のある子どもへの対応		<p><学習内容>障害のある子どもへの対応、福祉について学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
10	少年非行 外国籍の子どもとその家庭		<p><学習内容>少年非行の現状とどのような支援が行われているのか、外国籍の子どもとその家庭の現状や課題について考える。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
11	子どもの貧困		<p><学習内容>子どもの貧困の現状や子どもに与える影響などを考える。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
12	子どもの権利と虐待①		<p><学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
13	子どもの権利と虐待②		<p><学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
14	子どもの権利と虐待③		<p><学習内容>子どもの権利と虐待についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>

15	これからの子ども家庭福祉 まとめ		<p><学習内容>この授業をとおして学んだことのまとめとこれからの子ども家庭福祉について考える。</p> <p><事前学習>今までの授業のプリントなど振り返っておく。(30分)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)</p>
16	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育者論		飯塚 恭一郎		1	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1205		
		担当教員	飯塚 恭一郎					
幼	科目	教職の意義等に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容						必修
保	系列	保育の本質・目的の理解に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育者	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所、認定子ども園など保育者の職場について、関係法令や資料をもとに役割や特徴などの理解を深める。 保育者の仕事の内容や社会的な位置付け、処遇等について具体的な事例を基に学ぶ。 討議を通じて目指すべき保育者像を明らかにし、説明する。 						
2	幼稚園							
3	保育所							
4	認定子ども園							
5	子育て支援							
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> 保育者の役割と仕事の内容および社会的な位置づけについて説明できる。 保育者の職場（幼稚園・保育所・認定子ども園など）について説明ができる。 自らが目指す保育者像を説明することができる。 						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験	課題・グループワーク	受講態度	合計				
評価割合 (%)	30%	30%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。	
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が十分である。	
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。	
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・提出物の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題については授業内で正解回答を説明する。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『保育者論の探求』 森上史朗編著 ミネルヴァ書房 『子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK』 内閣府		
【関連科目】		
「教育原理」「保育原理」		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
卒業必修 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（3時間）
2 保育者の職場① －幼稚園(1)－		【学習内容】 幼稚園について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。 【事前学習】 幼稚園を含め日本の保育施設にはどのような施設があるか下調べをする。（1時間） 【事後学習】 調べ学習シートの設問以外にも幼稚園に関する解説や情報を収集する。（3時間）
3 保育者の職場② －幼稚園(2)－		【学習内容】 前回の授業で使用した幼稚園に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、幼稚園について学ぶ。 【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。（1時間） 【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、幼稚園についての理解を深める。（3時間）

4	保育者の職場③ - 保育所(1) -	<p>【学習内容】 保育所について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。</p> <p>【事前学習】 保育所を含め子育て支援を担う施設や事業が現在どのくらい展開されているか下調べをする。(1時間)</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの設問以外にも保育所に関する解説や情報を収集する。(3時間)</p>
5	保育者の職場④ - 保育所(2) -	<p>【学習内容】 前回の授業で使用した保育所に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、保育所について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、保育所についての理解を深める。(3時間)</p>
6	保育者の職場⑤ - 認定こども園など -	<p>【学習内容】 認定こども園を中心に子育て支援に関わる保育施設について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。また、その解説を聞き子育て支援に関わる保育施設について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 子ども子育て支援新制度の資料を入手して認定こども園を含め子育て支援に関わる施設とサービスの概要について概観しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、子育て支援に関わる施設についての理解を深める。(3時間)</p>
7	保育者の位置づけ① - 免許資格・免許更新・研修制度 -	<p>【学習内容】 保育者に必要な免許、資格、免許更新制度、研修制度など保育者の社会的地位を裏付ける制度等について調べ学習を通して学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめどのような免許や資格があるか下調べをしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートを含め授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、保育者必携の免許・資格について理解を深める。(3時間)</p>
8	保育者の位置づけ② - 処遇・給与など -	<p>【学習内容】 保育者の賃金の原資など、保育者の処遇に関わるお金の流れと仕組みについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 昨今の保育者の処遇に関わる報道や制度の制定についてネット情報等も活用し下調べをする。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、保育者の処遇に関わるお金の流れと仕組みについて理解を深める。(3時間)</p>
9	保育制度 - 子ども・子育て支援新制度を中心に -	<p>【学習内容】 専用シートをもとにした調べ学習として「子ども・子育て新制度」について調べその仕組みと内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第6回の授業内容の配付資料を読み返し、ここまで学んでいる「新制度」について概観しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 『子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK』の抜粋資料を整理する。そして授業内容のメモ・記録と併せて熟読し制度の理解を深める。(3時間)</p>

10	保育者の心得① －職員集団－	<p>【学習内容】 保育の仕事における保育者間の連携と協力、協同性、 チームティーチングの重要性とその実際について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 授業内で紹介した保育現場の事例が掲載されている資料や 文献をあたり、保育者の連携の実際を概観しておく。(1時 間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、保育現場の事例が掲載 されている資料や文献とも併せて保育者間の連携、協同の 重要性と教育的効果について理解を深める。(3時間)</p>
11	保育者の心得② －家庭との連携－	<p>【学習内容】 保育者の仕事における保護者や家庭との連携の重要性を学 び、連絡帳等の具体的なツールや技術が必要であることを 知る。</p> <p>【事前学習】 自分自身が保育施設に通っているときの施設と保護者との 連携がどのように行われていたか聞き取るなどして実際の 事例を情報としてリサーチしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、その他にもどのような 連携の在り方があるか、ネットを活用して調べるなどし て、連携の実際について理解を深める。(3時間)</p>
12	保育者の心得③ －地域との連携－	<p>【学習内容】 保育施設が地域にとって保育と子育ての中心的役割を担っ ていることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 自分自身の幼児期の経験を振り返るなどして、保育施設と 地域との連携事例をイメージしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料等をもとに、保育施設としての地 域連携の在り方と保育者一人一人の仕事としての地域連携 の方法を整理ながら理解を深める。(3時間)</p>
13	目指す理想の保育者像① －グループディスカッション－	<p>【学習内容】 グループディスカッションを通して、「目指す理想の保育 者の姿」を明らかにしていく。</p> <p>【事前学習】 自分になりたい保育者のイメージと必要となる資質や人柄 などを考察し整理しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 ポスター発表に向けて、「理想の保育者像」のイラスト表 現と説明文章のアイデアを練っておく。(3時間)</p>
14	目指す理想の保育者像② －ポスター発表準備－	<p>【学習内容】 前回授業のグループディスカッションで明らかにした「理 想の保育者像」を、グループメンバーと協同でイラストと 仮説明文を使って発表ポスターに表現する。</p> <p>【事前学習】 保育者像のイラストスケッチや説明文の下書きなどを準備 する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 理想の保育者に近づくために、今後身に付けていくべき専 門性や保育技術等には何があるか考察する。(3時間)</p>
15	目指す理想の保育者像③と授業のまとめ －ポスター発表－	<p>【学習内容】 「理想の保育者像」のポスター発表を実施し、他者に自グ ループの考える保育者像を伝えると共に、他グループの考 える理想像を見て、保育者の在り方を考察する。</p> <p>【事前学習】 ポスター発表と同時に、捕捉の説明や質問があった場合の 回答などをあらかじめ準備しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 自グループの保育者像と他グループのそれを比較するなど して、理想像に共通することがある一方、多様な価値と理 想があることを知り、今後の学びに生かすことを考察す る。(3時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

【実務家教員】

フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		

【実務経験】

幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。

【実務経験を生かした授業科目】

「保育者論」、「子どもと人間関係」、「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育・教職実践演習」

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの心理学	青沼 典子	1	前期	講義	必修	2
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1206	
	担当教員	青沼 典子（実務家）、畠中 智恵				
幼	科 目	教育の基礎的理解に関する科目				必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目				必修
【キーワード】		【概要】				
1	乳幼児	幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期、児童期、青年期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる内的・外的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、子どもの援助について考える。				
2	発達					
3	子どもの学び					
4	臨床的問題					
5	保育観					
【到達目標】		1. 子どもの心身の発達について説明できる。 2. 乳幼児期から青年期における運動、言語、認知、社会性の発達について説明できる。 3. 保育や子育てについて、子どもの発達に応じた対応ができる。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	受講への取組み（出席）	提出物	合計		
評価割合（%）	60	20	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 試験終了後、試験の講評及び解説を行う。		
【教科書】 『保育の心理学』青木紀久代編 みらい		
【参考書・参考資料等】 『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』無藤隆著／岩立京子編集 萌文書林 『よくわかる発達心理学[第2版]』無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編集 ミネルヴァ書房		
【関連科目】 「子ども理解の方法」「保育内容関連の科目」		
【受講心得】 自分の幼い時のことを振り返り、講義、演習と結びつけていく。 積極的に学ぶ姿勢で受講する。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション・子どもの発達	全員	<学習内容>授業の進め方の説明と、発達に関する要因など発達の基礎的知識を中心に説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第1章を読んでおく。(30分) <事後学習>子どもの発達に関する概要を復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
2 子どもの発達及び保育観の変遷	全員	<学習内容>発達の考え方、子ども観、保育観の変遷について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第2章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
3 乳幼児期の社会情動的発達	全員	<学習内容>乳幼児期に現れる情動の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第3章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
4 乳幼児期の身体の機能と運動の発達	全員	<学習内容>身体機能と運動機能の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第4章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
5 乳幼児期の学習に関わる理論	全員	<学習内容>乳幼児期に関わる学習理論を中心に説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の第5章（第4節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)

6	乳幼児期の認知の発達	全員	<p><学習内容>認知発達に関わる理論を、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第5章（第1～3節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
7	乳幼児期の言語・コミュニケーションの発達	全員	<p><学習内容>乳幼児の言語の発達とコミュニケーションについて説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第6章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
8	子どもの発達と臨床的問題① 発達障害	全員	<p><学習内容>子どもの障害（発達障害・知的障害）について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第7章（第1～3節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
9	子どもの発達と臨床的問題② アセスメントと発達支援	全員	<p><学習内容>子どもの障害把握やその評価方法について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第7章（第4、5節）を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
10	乳幼児期の学びに関わる理論① 愛着	全員	<p><学習内容>愛着理論を中心に、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第8章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
11	乳幼児期の学びに関わる理論② 遊び	全員	<p><学習内容>子どもの遊びの有用性について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第9章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
12	乳幼児期の学びに関わる理論③ 遊びと心身の発達	全員	<p><学習内容>子どもの遊びと心身の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第9章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
13	乳幼児期の学びを支える保育	全員	<p><学習内容>子どもの発達における保育の役割について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第11章を読み、専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>
14	児童期の運動、言語、認知、社会性の発達	全員	<p><学習内容>児童期の運動や言語、認知、社会性の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>参考書などを読み、児童期の発達における専門用語の意味を理解しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。（1時間）</p>

15	青年期の運動、言語、認知、社会性の発達	全員	<学習内容>青年期の運動や言語、認知、社会性の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>参考書などを読み、青年期の発達における専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
16	定期試験	全員	

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏名	青沼 典子	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】</p> <p>幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】</p> <p>「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「保育内容（言葉）」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの保健		楠野 雅子		1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1209	
		担当教員	楠野 雅子					

幼	科目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】					
1 健康と保健	<p>子どもの心身の健康と保健活動の意義。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</p> <p>子どもの身体的発育及び運動機能の発達と保健。生理機能の発達と保健。</p> <p>子どもの心身の健康観察・心身の不調等の早期発見・身体発育の評価・健康診断・保護者との情報共有</p> <p>子どもの主な疾病の特徴。子どもの疾病予防及び適切な対応。</p> <p>地域における保健活動と子どもの虐待防止</p>					
2 発育・発達と保健						
3 心身の健康						
4 疾病予防						
5 虐待防止						
【到達目標】	<p>1. 子どもの身体的な発育・発達と保健について学習し、子どもの心身の健康保持・増進を図る保健活動の意義を理解する</p> <p>2. 子どもの心身の健康観察とその把握の方法について理解する</p> <p>3. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する</p>					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性					
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○					
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○					
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○					
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	受講態度	提出物	合計		
評価割合 (%)	70	20	10	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
課題レポートは、コメントを返却するので、確認して返答すること。		
【教科書】		
『子どもの保健・実習』兼松百合子編 同文書院		
【参考書・参考資料等】		
『保育所における感染症対策ガイドライン』『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 『実践保育学』帆足 英一監修 日本小児医事出版 『子どもの保健Ⅰ・Ⅱ』ななみ書房 『子どもの保健・実習』兼松百合子編 同文書院 『子どもの保健』学健書院 『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メデックメディア 『発達がわかれば子どもがみえる』田中真介		
【関連科目】		
『子どもの健康と安全』		
【受講心得】		
子どもが健康で安全な保育生活を過ごせるように、子どもの心身の健康保持・増進に必要な知識・技術の習得に努めてほしい		
【備考】		
保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 子どもの心身の健康と保健の意義		<学習内容>初回講義のため、講義要項（シラバス）について。子どもの保健と健康保健活動の意義と目的、子どもの出生と母子保健の意義、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題<事前学習>事前に講義要項に目を通しておく<事後学習>講義内容の復習（1時間）
2 子どもの発育・発達と保健 ①身体発育及び運動機能の発達と保健		<学習内容>①こどもの身体発育と運動機能の発達。乳幼児の身体計測の仕方、標準的な子どもの身体発育、発育の評価の仕方、身体発育に影響を与える因子、子どもの運動発達<事前学習>該当ページに目を通しておく（1時間） <事後学習>講義内容の復習。乳幼児の計測・記録・評価の仕方（身長・体重計測。パーセントイル曲線に記録）（1時間）
3 子どもの発育・発達と保健 ②生理機能の発達と保健		<学習内容>②子どもの生理機能の発達と生活習慣。子どもと大人の生理機能の違い。子どもの生理機能の評価の仕方。生理機能の発達に応じた生活習慣について<事前学習>該当ページに目を通しておく（1時間）<事後学習>子どもの生理機能について講義内容の復習。（発達に応じた体調の変化に気付き、排泄習慣と睡眠習慣など生活リズムを作る）（1時間）
4 地域における保健活動と子どもの虐待防止		<学習内容>地域における保健活動。子どもの虐待の現状、虐待の実際・対応。虐待防止への取り組み。<事前学習>該当ページに目を通しておく（1時間）<事後学習>講義内容の復習。地域の子育て支援の様々な取り組みと関係機関の連携で、子どもの虐待防止を行う必要性（1時間）
5 子どもの心身の健康状態とその把握 ①健康状態の観察 ②心身の不調時の早期発見		<学習内容>子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握。体調不良時の主な症状とその評価、対応について <事前学習>テキスト該当ページ、感染症ガイドラインに目を通しておく（1時間）<事後学習>健康状態の観察。心身の不調時の早期発見。発熱・嘔吐・下痢・咳などの対応。（1時間）
6 子どもの病気 ①子どもの免疫の発達と感染症の特徴		<学習内容>子どもの病気①子どもの免疫の発達と感染症の特徴。主な感染症と感染経路。子どものかかりやすい感染症 <事前学習>テキスト該当ページ、感染症ガイドラインに目を通しておく（1時間）<事後学習>感染症について。子どもの主な感染症。講義内容の復習（1時間）

7	子どもの病気 ②感染症の予防及び適切な対応		＜学習内容＞感染経路と対策、学校感染症、予防接種、母子感染予防＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞感染経路、医師の意見書が必要な感染症（出席停止期間の基準）、予防接種。講義内容の復習（1時間）
8	子どもの病気 ③救急疾患の特徴と適切な対応		＜学習内容＞重篤な状態の判断と対応、事故やけがの時の特徴と対応、急性疾患による緊急対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞子どもの急性疾患の救急対応、子どもの心配蘇生法。講義内容の復習（1時間）
9	子どもの病気 ④先天性の病気の特徴と対応		＜学習内容＞新生児の病気・先天性の病気の特徴と対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
10	子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（1）		＜学習内容＞アレルギー疾患に関する基本的な知識と、保育所における対応の基本原則＜事前学習＞資料・テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。主なアレルギー疾患について（食物アレルギー・アナフィラキシーアトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎）
11	子どもの病気 ⑤アレルギー疾患の特徴と適切な対応（2）		＜学習内容＞食物アレルギーの対応。保育所におけるアレルギー疾患生活管理表に基づく対応＜事前学習＞資料・テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習。生活管理指導法に基づく対応（食物アレルギー・アナフィラキシー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎）（1時間）
12	子どもの病気 ⑥慢性疾患の特徴と適切な対応		＜学習内容＞慢性疾患の特徴と適切な対応＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
13	保護者との情報共有と家族の支援		＜学習内容＞集団生活前健診（入所時健診、入園時健診）、保護者との健康情報の共有、子どもの家族支援、子育て支援＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）個別な配慮が必要な子どもには、必要な支援も含めて保護者と保育者で情報共有。関係機関との連携し、きめ細かな支援の必要性
14	子どもの健康診断と関連機関との連携		＜学習内容＞子どもに関する健診の内容と意義。健診を通じた関係機関との連携の実際と意義。健診を通じた子育て支援。＜事前学習＞テキストに目を通しておく（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）
15	まとめ		＜学習内容＞重要な項目。＜事前学習＞子どもの健康状態の観察と体調不良時の適切な対応、感染症、アレルギー疾患など（1時間）＜事後学習＞講義内容の復習（1時間）

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの食と栄養 I		宅間 真佐代		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1210		
		担当教員	宅間 真佐代					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の対象の理解に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	栄養	子どもの食生活は、生涯の健康と生活の基盤であり、その後の心と身体の健康に大きな影響を及ぼす。健全な発育・成長を促すために必要な栄養及び食生活に関して学ぶとともに各発達段階の生理的変化についても理解する。また、栄養に関する基本的事項について理解を深める。						
2	食生活							
3	発育							
4	発達							
5	健康							
【到達目標】		1. 栄養の基礎知識について理解し説明できる。 2. 子どもたちの成長・発達に適した栄養について理解し説明できる。 3. 子どもの食事指導を行うための実践的な知識及び技術を理解し実践できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもたちの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験の成績			受講態度等			合計	
評価割合 (%)	85			15			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 試験終了後、模範解答を配付するので確認すること。		
【教科書】 『子どもの食と栄養』 林俊郎編著 一藝社 『子どもの食と栄養』 高内正子監修 保育出版社		
【参考書・参考資料等】 参考書：『子どもの食と栄養』 堤ちはる・土井正子編著 萌文書林 参考資料：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における食事提供のガイドライン』		
【関連科目】 『子どもと保健』『乳児保育』『子どもの心理学』『保育内容全般』『障害児保育』等		
【受講心得】 遅刻、欠席をしない。積極的な学習及び態度で臨む。理論と実習を通して、子どもの食と栄養についての理解を深めて欲しい。		
【備考】 保育士必修科目 理解度に応じて学習内容の変更を行う場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 子どもの健康と食生活の現状		<学習内容>子どもの健康と食生活の現状について説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
2 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
3 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
4 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
5 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。

6	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。また、食事摂取基準と献立作成・調理の基本について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
7	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>講義の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
8	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
9	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
10	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
11	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
12	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
13	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
14	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>

1 5	子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと人間関係		飯塚 恭一郎		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1214		
		担当教員	飯塚 恭一郎					
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育内容	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容5領域および「人間関係」領域について、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に準拠して理解を深める。 保育における「生活」と「遊び」の背景にある人とのかかわりと、子どもの発達や育ちの関係について学ぶ。 大人との愛着関係や信頼関係をはじめ、子ども同士や集団との関係性など保育現場に見るさまざまな人とのかかわりのあり方を、事例をもとにして理解していく。 						
2	人間関係							
3	信頼関係							
4	個と集団							
5	相互理解							
【授業のテーマ及び到達目標】		<p>1. 保育内容5領域と人間関係領域について、ねらいや内容の意味するところや領域の視点から子どもの育ちを見ることが出来る。</p> <p>2. 子どもの生活と遊びをささえる周囲の人とのかかわりの重要性とそれによって保証される子どもの育ちの姿をイメージすることができる。</p> <p>3. 保育の中で、子どもが多種多様な人々とのかかわり、個人と集団の関係性を成立させる社会規範について学んでいくことの重要性を説明できる。</p>						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計				
評価割合 (%)	20%	40%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。							
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が十分である。							
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。							
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題や演習については授業内で説明，講評をする。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）		
【関連科目】		
「保育内容（人間関係）」 「保育原理」 「保育内容総論」		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス／保育内容5領域とは		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要，目標，スケジュール，評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。併せて「保育内容5領域」の概要について学ぶ。 【事前学習】 事前にシラバスと『幼稚園教育要領解説』等に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）
2 5領域と「人間関係」領域①		【学習内容】 小学校の『学習指導要領』などとの比較を通して，「保育内容」と「領域」の根本的な理念を学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に，「保育内容のねらいと内容」の説明がある箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布資料と『幼稚園教育要領』第2章を合わせて熟読し，「保育内容」と「領域」の根本的な理念の理解に努める。（1時間）
3 5領域と「人間関係」領域②		【学習内容】 保育内容5領域がしめす「ねらい」が表す「心情」「意欲」「態度」の意味を学ぶ。併せて「人間関係領域」にフォーカスしてその保育内容のねらいについて学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に目を通し，各領域のねらいと「人間関係領域」について概観しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布プリント資料を読み返し，保育内容5領域の「心情」「意欲」「態度」について理解を深める。（1時間）
4 生活と遊びを通して生まれるかかわり		【学習内容】 就学前教育の根幹をなす「生活」と「遊び」について，その目指すところ知り，その生活と遊びを成り立たせうる保育施設の環境を構成する「人間関係」について学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第1節と第2章「人間関係領域」を中心に目を通し，幼児期にふさわしい生活と遊びを通した総合的な指導の意味と人間環境域の内容について概観しておく。（0.5時間） 【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し，環境を構成する「人間関係」の意味について理解を深める。（1時間）

5	大人とのかかわりー信頼関係構築①ー	<p>【学習内容】 子どもと保育者との一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子どもと保育者との一対一の関係性について理解を深める。(1時間)</p>
6	大人とのかかわりー信頼関係構築②ー	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する子どもの心情について映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)や前回授業の読解シートに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における子どもの心情について理解を深める。(1時間)</p>
7	大人とのかかわりー信頼関係構築③ー	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する保育者の心情と保育のねらいについて映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における保育者の思いと保育の配慮について理解を深める。(1時間)</p>
8	子ども同士のかかわりー個と個①ー	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子ども同士の一対一の関係性について理解を深める。(1時間)</p>
9	子ども同士のかかわりー個と個②ー	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係のなかにある個々の子どもの心情・思いについて、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)や前回授業の読解シートに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係性のなかにある個々の子どもの心情・思いについて理解を深める。(1時間)</p>

1 0	子ども同士のかかわり－個と個③－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について理解を深める。(1時間)</p>
1 1	集団の中でのかかわり－個と集団①－	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7),(8)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について理解を深める。(1時間)</p>
1 2	集団の中でのかかわり－個と集団②－	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7),(8)や内容の取扱い(2)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について理解を深める。(1時間)</p>
1 3	多様な人とのかかわり －気になる子どもなど－	<p>【学習内容】 いわゆる「気になる子ども」や異文化、多様な価値観を持った子どもとの関わりにつて、保育事例をもとに学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)などにあらかじめ目を通したり、様々な育ちの背景を持った友達と関わった自分自身の経験を振り返ったりしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、様々な育ちの背景を持った友達との関わりについて理解を深める。(1時間)</p>
1 4	地域とのかかわり－学びの連続性－	<p>【学習内容】 高齢者や小学校など、学びの連続性も視野に入れた地域との関わりについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(13)や内容の取扱い(6)などにあらかじめ目を通すなどして、地域との関わりについて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、地域との関わりと「学びの連続性」概念について理解を深める。(1時間)</p>

15	授業の振り返りとまとめ		<p>【学習内容】 授業内容を振り返り，園生活における様々な人間関係について，一対一の関係を基本にして，人の心情理解が重要であることを再確認する。</p> <p>【事前学習】 授業内で配布されたプリント資料や『幼稚園教育要領解説』の人間関係領域箇所を再読しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 様々な人間関係における心情理解の重要性について，配布プリント資料等を整理，保存するなかで，再確認をしておく。(1時間)</p>
16	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】 「保育者論」、「子どもと人間関係」、「保育・教育課程論」、「保育内容総論」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと言葉		青沼 典子		1	前期	演習	必修	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1215		
		担当教員	青沼 典子 (実務家)					

幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等		領域に関する専門的事項	
保	系列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】
1 コミュニケーション	子どもの言語の獲得や発達過程について基礎的な知識を学習し、子どもの事例から理解を深めていく。保育技術の習得と、向上を目指し、グループでの制作活動や、保育実践を想定した演習を行う。絵本の読み聞かせの基本を学び、保育者としての実践力を付けていく
2 児童文化	
3 絵本	
4 文字	
5 表現	

【到達目標】
1. 子どもの言語の獲得や発達過程を学習し、子どもへの理解を深めていく
2. 子どもの年齢に応じた様々な児童文化財を知り、実践演習による保育技術の習得向上を目指す。
3. 絵本の読み聞かせの基本を学び、保育者としての実践力を付けていく

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験	提出物、課題	演習、受講態度	合計
評価割合 (%)	40	30	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	講義、演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が十分である。	
A	講義、演習の目的を理解して、課題に取り組む姿があり、課題、提出物の内容がおおむね十分である。	
B	講義、演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が本人の力量相応である。	
C	講義、演習課題に取り組む姿はあるが、課題、提出物が最低限の内容に留まっている。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 小テスト等は模範解答及びコメントを返却する。解説を聞き、やり直しをして確実に理解をすること。		
【教科書】 『事例で学ぶ保育内容、領域 言葉』 萌文書林		
【参考書・参考資料等】 『保育と絵本』 エイデル研究所		
【関連科目】 保育内容全般 「子どもの心理学」		
【受講心得】 児童文化財について、日頃より幅広く親しむ グループ活動には積極的に参加すること。 子どもに関する情報に関心を持つ。		
【備考】 幼稚園教諭必修科目		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 子どもの言葉の発達		【学習内容】 今からの学習についての見通しを持たせる。人にとって言葉はどのような働きをするのか？言葉を持つこととはどのような意味を持っているのか、言葉のコミュニケーションについて基本的な事を考える。 (事前学習) シラバスをみて、今後の学習についての見通しを持つ。(30分) (事後学習) 授業後、言葉について感じたことをまとめ、感想を書く(30分)
2 言葉獲得の道筋①親子の関わり		【学習内容】 生まれてからどのように言葉を獲得していくかを、自身や、周りの子どもに置き換え、身近なところから実感させながら学習を進める。感想を書く (事前学習) テキストの指定された章を読んでくる。どのような内容かを把握しておく。(30分) (事後学習)、きょうの内容をまとめる。言葉の例を考え、ノートする。(30分)
3 子どもの言葉の発達の道筋② 関りの広がり		【学習内容】 言葉を獲得していく道筋をたどる。2歳までが最も獲得の著しい大事な時期なので、表や例を用いて理解させる。子どもにとっての絵本の持つ意味を学習する。実際に子どもの好きな本を手にとって見る。感想を書く。 (事前学習) 前回の内容を振り返り見ておく、テキストの指定されたページを読んでおく。30分 (事後学習)、振りかえりとまとめ(30分)
4 乳幼児の言葉と絵本		【学習内容】 小テストで言葉獲得の道筋の理解を図る。絵本の基本についての学習。絵本が子どもの成長、言葉、感性にどのように働きかけるのか？絵本の基本について学ぶ。感想を書く。 (事前学習) 言葉の獲得について(30分) (事後学習) 乳児の絵本を探し、読んでみる(30分)
5 年齢ごとの子どもの姿と言葉①		【学習内容】 小テストを配り、解説をする。間違ったところに書き加えをする。0, 1, 2の本を用意しておき5～6人のグループで読み合わせをする。読み方や感想などのかかせ、こども視線を考える。 (事前学習) 指定されたテキストの章を読んでおく。(30分) (事後学習) 小テストのまとめ、大事なところを確実に理解する。(30分)

6	年齢ごとの子どもの姿と言葉②		<p>【学習内容】図書館に行き、子どもの本のコーナーを知る。3歳未満児、3歳以上児の本を〇冊ずつえらび読んで、あらすじ、感想を書く。そのことで、少しでも絵本に触れ、えほんをしる。こども目線に立ち、どんな本が喜ぶのか考えてみる機会とする。 (事前学習) 図書館の場所本の位置を調べておく(30分) (事後学習) レポートを書く (30分)</p>
7	感性を育む保育活動 (絵本と体験) ①		<p>【学習内容】子どもの言葉の発達に欠かせない児童文化について知る。幼児の好きなてあそびを実際に行ってみる。グループで1個ずつ探させ、グループごとにやってみる。 (事前学習) 指定されたテキストの章を読んでくる。(30分) (事後学習) てあそびについて調べる (1時間)</p>
8	感性を育む保育活動 (絵本と体験) ②		<p>【学習内容】グループに分かれ、その中で一人づつ絵本を読み聞かせ実践する。それぞれのいいところ、もう少しの所をレポートする。 (事前学習) 絵本調べ (30分) (事後学習) てあそび復習 (30分)</p>
9	感性を育む保育活動 (読み聞かせの実際) ①		<p>【学習内容】読み聞かせ振り返り、絵本の読み聞かせのポイント (事前学習) 指定されたテキストの章を読む (30分) (事後学習) 読み聞かせの練習 (30分)</p>
10	感性を育む保育活動 (読み聞かせの実際) ②		<p>【学習内容】グループで何をするか、考え、出し合う。必要な物、計画などを話し合い、出来るところかあ取り掛かる。 (事前学習) 保育園の園児にしてあげたいことを考えて調べてくる (30分) (事後学習)、来週にむけてのとりかかりや材料等をグループで確認しあう、感想や反省をレポートする (1時間)</p>
11	作って遊ぼう (絵本からの展開) ①		<p>【学習内容】各グループで企画したことを進める。練習まで出来るように。 (事前学習) 材料、道具などを前もって準備 (30分) (事後学習) 感想、反省、次回へのつなぎを書く (30分)</p>
12	作って遊ぼう (絵本からの展開) ②		<p>【学習内容】すぐに練習にとりかかる。時間を決めてクラス全員の前で実践できるように練習する。各グループの実践の感想を伝え合い、保育園での発表に繋げる。 (事前学習) グループごとに準備をしておく (30分) (事後学習) 準備の確認。練習 (1時間)</p>
13	発表 (保育園)		<p>【学習内容】保育園で実践する、子どもたちに楽しい時間になるように何が大切かを各自考えさせる。練習してきたことを実践する。 (事前学習) 練習。(30分) (事後学習) 感想、反省を書き、次につないでいけるようにする。(30分)</p>
14	実践の振り返り・フィードバック、その他の児童文化財		<p>【学習内容】グループごとに実践したことの反省等、発表する。保育園からの感想や助言等をフィードバックする。子どもの前で実践し、こどものすがたを知ることの大切さを理解する。 (事前学習) 反省や感想のまとめ。 (事後学習) 全体の感想を書く (30分)</p>

15	ことば遊び、子どもと言葉まとめ・解説		<p>【学習内容】子どもと言葉で学んだことを振り返り、大切な個所を確認する。まとめの資料を解説する。 (事前学習) テキストの指定された章を読んてくる。 (1時間) (事後学習) 全体を振り返りまとめの学習をする (1時間)</p>
16	定期テスト		

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】 「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「保育内容（言葉）」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと表現	平嶋 一臣	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	オムニバス	ナンバリング		CE2315	
	担当教員	平嶋一臣・難波章人・豊辻晴香・谷川裕子				
幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項				
保	系列	保育の内容・方法に関する科目				必修
【キーワード】		【概要】				
1	表現力	「保育内容 表現」における知識、技能を理解し、現場における活動を具体的に学ぶ。子どもにおける表現活動は、五感を通してイメージを持ち、それを表現していく力と創作していく力を引き出していくことにある。そこで、本授業においてはまず各表現活動の特性を理解し、学生自らが表現力を高め、次に子どもの発達に基づいた活動内容を提供することができるようにする。さらにグループ活動により各表現教材を総合的な表現に結びつける創作活動を行う。				
2	五感					
3	イメージ					
4	創作					
5	発達					
【到達目標】		1. 保育内容「表現」を理解できる。 2. 各表現活動において表現方法を具体的に実践できる。 3. 造形表現、音楽表現、身体表現活動を関連づけ統合的に表現することができる。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】各表現活動における						
成績指標	受講態度等	発表活動	各表現活動における課題	合計		
評価割合 (%)	50	30	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。	
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物の内容が不十分である。	
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。		
【教科書】 『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』（編）竹井史 一藝社		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）		
【関連科目】 「保育内容（造形表現）」「子どもと健康」「保育内容（健康）」「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」 「音楽表現Ⅲ」「音楽表現Ⅳ」「保育内容（音楽表現）」「感性学」		
【受講心得】 表現活動であるため、他者との比較ではなく自分なりの表現を楽しむよう心がける。また他者の表現方法を理解し、自分の表現に生かせるように学ぶ。		
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション（表現とは）	全教員	＜学習内容＞乳幼児の表現と発達段階による表現の違いについて説明する。オムニバス授業全体の流れを説明する。 ＜事前学習＞事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） ＜事後学習＞各表現について考えてみる。（0.5時間）
2 表現活動（造形表現のねらい及び内容）	難波	＜学習内容＞教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた保育における造形表現のねらい及び内容について説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
3 表現活動（クレパスの描画表現）	難波	＜学習内容＞クレパスの特性を踏まえた題材について学習する。また、絵あそびの活動時の声掛けについて説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
4 表現活動（合わせ絵などの遊びと表現）	難波	＜学習内容＞モダンテクニックを使った絵あそびの技法と表現について説明する。 ＜事前学習＞材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） ＜事後学習＞授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）

5	表現活動（粘土遊びと表現）	難波	<p><学習内容>粘土の特性を活かした遊びと可塑性を活かした表現について学ぶ。</p> <p><事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
6	表現活動（ローラー遊びと表現）	難波	<p><学習内容>ローラーを使った絵あそびと版あそびへの展開を学ぶ。</p> <p><事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
7	表現活動（自然物を用いた表現）	難波	<p><学習内容>葉っぱや木の枝、または、石など私たちの身の回りにある自然物を使って表現することのねらいとその技法について説明する。</p> <p><事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
8	表現活動（総合的な表現について）	難波	<p><学習内容>造形活動での材料・素材は多様であり、身近に存在することについて解説する。また、様々な材料を組み合わせていく方法を説明する。</p> <p><事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
9	表現活動（象形文字によるイメージ作り①）	平嶋	<p><学習内容>象形文字の持つ豊かな表情を、幼児期の表現活動に活かす。ここでは、その一つとして、書表現の方法を各グループ（6名程度）で考え、テーマを決め大画仙紙に製作する。</p> <p><事前学習>あらかじめ配布された象形文字カードについて、個々の文字の現代読み・意味・歴史的背景を調べておく。（1時間）</p> <p><事後学習>次時の個人制作に向けて、『象形文字を組み合わせて創る世界に一つだけの物語』の構想を練っておく。（1時間）</p>
10	表現活動（象形文字によるイメージ作り②）	平嶋	<p><学習内容>幼児向け『象形文字を組み合わせて創る世界に一つだけの物語』を創り、その物語を効果的に表現できるよう、三分の一画仙紙に文字を配置・表現した墨象作品を創る（乾燥後裏面から着色）。</p> <p><事前学習>象形文字カードを基に、それを組み合わせた自作の物語を考えておく。（1時間）</p> <p><事後学習>自作の物語にふさわしい題名と物語（200字～300字）をA5版サイズにパソコンで打ち作品下部に貼付する。（1時間）</p>
11	表現活動（音楽表現）	豊辻	<p><学習内容>保育領域「表現（音楽）」の活動を体験し、そのねらい及び内容について理解する。</p> <p><事前学習>教育要領や保育所指針等の表現領域について読み込んでおく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業での経験や学びを書き留め、まとめておく。（1時間）</p>

1 2	表現活動（身体表現）	谷川	<学習内容>絵本からイメージした世界を身体で表現をすることを学ぶ。 <事前学習>子どものごっこ遊びや物を使ってイメージする遊びを調べておく。（0.5時間） <事後学習>学んだ表現方法を記述しておく。（1時間）
1 3	表現発表	全教員	<学習内容>いくつかの分野で学んだことを踏まえて表現発表を行う。 <事前学習>発表準備（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
1 4	表現発表	全教員	<学習内容>いくつかの分野で学んだことを踏まえて表現発表を行う。 <事前学習>発表準備（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）
1 5	まとめ	全教員	<学習内容>各表現を整理してノートにまとめる。 <事前学習>すべての授業の振り返りをしておく（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育 I		砥上 あゆみ		1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1217		
		担当教員	砥上 あゆみ					
幼 保	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	養護	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の必要性について学び、保育者の役割について考えていく。 ・3歳未満児の発育、発達の基礎的な知識に基づいた保育内容、保育者のかかわりや援助について学ぶ。 ・乳児保育における計画・記録・評価とその意義や保護者、地域、自治体等との連携、協働についても知識を習得する。 						
2	教育							
3	発達過程							
4	遊び							
5	指導計画							
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の役割と機能を理解できる。 2. 3歳未満児の発育と発達をふまえた保育内容、環境構成等を考えることができる。 3. 保護者、職員間、自治体等との連携・協働関係について説明することができる。 						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	試験	課題提出	受講態度	合計				
評価割合 (%)	40%	20%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題等については、返却を行い、要点を確認する。		
【教科書】 『資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館 無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館		
【関連科目】 「子どもの心理学」「子どもの保健」		
【受講心得】 専門職を目指すという心がまえをもち、積極的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めること。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 乳児保育の歴史の変遷および役割と機能		授業概要や到達目標の説明を行う。また、乳児保育の歴史の変遷や理念にふれ、求められる役割や機能について考えていく。 事前学習（0.5時間） シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 乳児保育の意義・目的と必要とされる社会的状況		保育所保育指針の改定にふれ、乳児保育の基本的事項や意義・目的について学ぶ。また、生涯発達からみた乳児の時期の特徴にふれ、保育士としてのかかわりの大切さを考える。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 0歳児の発達の特徴と保育（1）		0歳前半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 0歳児の発達の特徴と保育（2）		0歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 1歳児の発達の特徴と保育（1）		1歳前半の発達過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 1歳児の発達の特徴と保育（2）		1歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	2歳児の発達の特徴と保育 (1)	2歳前半の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	2歳児の発達の特徴と保育 (2)	2歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を押さえておく。
9	3歳児の発達の特徴と保育	3歳児の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
10	乳児保育の内容と方法 (1)	乳児保育の内容や方法について、基本的生活を中心にみていく。1日の流れや衛生面や安全面に配慮された生活環境について理解を深める。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
11	乳児保育の内容と方法 (2)	乳児保育の内容や方法について、子どもの発達に応じたあそびについて理解を深める。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
12	乳児保育の内容と方法 (3)	子どもの発達をみる視点や子ども理解等、保育の実践の中で大切にしたいことについて考えていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
13	多様な場における乳児保育の現状と課題	多様な場における乳児保育の現状と課題について学ぶ 事前学習 (0.5時間) 課題について、調べておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
14	乳児保育における連携・協働	乳児保育において、職員間が連携する意義や保護者との連携の大切さ、また、自治体や地域ともどのような連携が必要とされているのかを考える。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
15	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	乳児保育における計画・記録・評価の基本的事項を知り、保育の現場でどのような記録があり、活かされているのかを理解する。 事前学習 (0.5時間) 教科書で熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
16	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導 I		飯塚恭一郎		1・2	通年	演習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1219		
		担当教員	保育所担当：飯塚恭一郎 豊辻晴香 砥上あゆみ 昌中智恵 施設担当：菅原亜紀 古野愛子					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育実習						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育所	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習の事前指導として学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行う。 実習生としての心得に始まり、保育所実習および施設実習に関わる観察法、記録や指導計画等の記述法、遊びや指導の技術等、実習に求められる基本的な知識と技能を学ぶ。 実習終了後に実習の振り返りと総括、自己評価を行い、自らの今後の課題を明らかにして学習目標を持つ。 						
2	施設							
3	保育実習							
4	記録							
5	指導計画							
【到達目標】		1. 保育実習の意義、目的、内容を理解し、自らの実習の課題を明確にできる。 2. 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	演習への取り組みの姿勢・受講態度			課題・提出物等			合計	
評価割合 (%)	60%			40%			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。							
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。							
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。							
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。		
【教科書】 純真短大こども学科『実習のてびき』および各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。		
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」および「保育実習指導Ⅲ」		
【受講心得】 遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は、実習中止の判断をする場合がある。		
【備考】 保育士課程必修 なお、状況により学習進行や順番が変わる場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保育所実習の意義・目的・概要	保育所 担当 教員	【学習内容】 保育所実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
2 実習の内容と課題、留意事項について	保育所 担当 教員	【学習内容】 保育所実習の具体的な内容と留意すべきことについて学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
3 乳幼児の発達の理解	保育所 担当 教員	【学習内容】 視聴覚教材や保育課程等を参照し乳幼児の発達を基盤とした保育所の生活について学ぶ。 【事前学習】 他授業の乳幼児の発達に関わる資料等を参照するなどして発達の概要を押さえておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て乳幼児の発達についての理解を深める。（0.5時間）
4 子どもの人権と最善の利益の考慮について	保育所 担当 教員	【学習内容】 「乳幼児倫理綱領」「子どもの権利条約」等子どもの人権尊重と保育の仕事について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て子どもの人権を尊重する保育者の役割と仕事について学びを深める。（0.5時間）
5 実習生としての心構え	保育所 担当 教員	【学習内容】 実習生あるいは社会人として子どもの前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て日々の自分の立ち居振る舞い等を見直す。（0.5時間）

6	観察実習・参加実習・指導実習について	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「観察実習」「参加実習」といった実習の段階があることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て各実習の段階の違いとそこでの学びの違いについて理解を深める。(0.5時間)</p>
7	実習の課題の明確化	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 日々の実習において、その日の「学びの課題」を設定し実習に取り組むことの重要性を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。(0.5時間)</p>
8	実習における観察、記録および評価について	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習内容や観察内容の「記録」の必要性とツールとしての「日誌」の役割と記述方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日誌についてイメージをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日誌に関する資料やテキストをリサーチし、日誌記述の具体例の情報収集をする。(0.5時間)</p>
9	部分指導案の作成	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 指導計画を立てることの意義を知り、部分指導案の記述方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 具体的な保育内容をイメージしてその流れを言語化するシミュレーションをする。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布された部分指導案のサンプル資料と授業内容の記録メモをもとに、指導案に描写すべき内容と記述方法の理解を深める。(0.5時間)</p>
10	保育技術の習得①	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「手遊び」を中心にロールプレイ演習に取り組み基本的な遊びの技術を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 他授業のテキストや保育雑誌等を参照して具体的な手遊びを練習しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布されたプリント資料や授業内容の記録メモ、記憶を頼りに手遊びの練習を繰り返す。(0.5時間)</p>
11	保育技術の習得②	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 「絵本の読み聞かせ」を中心に、年齢に適した絵本の選び方とロールプレイ演習で絵本の読み聞かせの技術を体験的に学ぶ。</p> <p>【事前学習】 図書館等で乳幼児向けの絵本を見るなど絵本について下調べをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 年齢に適した絵本を再度熟読し、声に出して読み聞かせの練習をする。(0.5時間)</p>

1 2	提出書類の作成	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所を目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)</p>
1 3	実習の振り返りと自己評価①	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)</p>
1 4	実習の振り返りと自己評価②	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。</p> <p>【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習への取り組みの見通しを考察する。(0.5時間)</p>
1 5	今後の課題の明確化	保育所 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと自己評価等の学びを整理をベースに、保育実習Ⅱにむけて自己の実習課題を明確にする。</p> <p>【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習日誌を核に、実習指導の中で配布されたプリント資料等を保育実習Ⅱに生かせるように整理しておく。(0.5時間)</p>
1 6	施設実習の意義・目的	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 施設実習の概要とその意義、目的について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所を目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)</p>
1 7	子ども家庭福祉の現状と施設の概要	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 現代の子どもと家庭が置かれている現状と、支援を担う児童福祉施設の役割について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、現代の子どもと家庭の現状について概要を調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 支援のニーズと各児童福祉施設の機能と役割について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>

1 8	施設と利用する子どもの理解①	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 養護系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「子ども家庭福祉」授業テキストや資料等を活用するなどし、養護系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 養護系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>
1 9	施設と利用する子どもの理解②	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 障害系児童福祉施設の役割と、利用する子どもの背景や理解について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 障害者の理解に繋がる資料やテキストをあたり、障害系児童福祉施設とその利用者についてあらかじめ調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 障害系児童福祉施設の機能と利用者の受け入れや理解について、配付資料などを熟読し理解を深める。(0.5時間)</p>
2 0	保育士の役割と支援方法	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設における保育士の役割と仕事の内容について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所を目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)</p>
2 1	施設実習の希望調査	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設の種類と具体的な実習受け入れ先の情報を知り、希望する実習先を選定する。</p> <p>【事前学習】 これまでの学んだ児童養護施設の種類と自分自身の実習希望とのマッチングを探しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深める。(0.5時間)</p>
2 2	実習先の決定・グループ分け	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 決定された実習先と同じ施設で実習をする学生とグループピングを行い、実習に向けて情報交換を行う。</p> <p>【事前学習】 希望を絞り込んだ施設の役割や福祉機能について資料をもとに理解を深めておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 同じ施設に実習に行く学生と実習の課題や目的意識を報共有するようにする。(0.5時間)</p>
2 3	児童福祉施設保育士の講話	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 児童養護施設勤務の現場保育士の講話を聞き、現場の実際を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 講師の職場についてあらかじめ施設の種類や特徴について調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 児童養護施設における保育者の仕事について、これまでの学習で理解していたことと実際の様子との差異を認識し、施設と利用者の理解をいっそう深めていく。(0.5時間)</p>

2 4	実習中の心得・目標と課題	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習生あるいは社会人として利用者の前に立つことを前提にした心構えについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や、広く人権擁護と福祉に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て自分自身の日々の生活の有り様を見直す。(0.5時間)</p>
2 5	実習における観察の視点と記録の方法	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 利用者のニーズを酌み取り心情理解に繋がる一人ひとりを対象にしたミクロな視点からの観察とその記録の方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 幼稚園や保育所での実習記録・日誌の記述と比較しながら施設実習における観察と記録のコツを理解する。(0.5時間)</p>
2 6	提出書類の作成	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理、保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)</p>
2 7	実習報告書の作成	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習を終えて、実習先で得た情報や学びを、個人情報に配慮しながら報告書にまとめていく。</p> <p>【事前学習】 実習日誌の記述内容に目を通し、実習経験を報告書にまとめることができるように事前に情報を整理しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 同じ施設で実習をした学生と報告書の記述内容について比較するなどして実習で得た知見を広げる。(0.5時間)</p>
2 8	実習の振り返りと自己評価①	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして、実習の学びを整理する。(0.5時間)</p>
2 9	実習の振り返りと自己評価②	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 実習の振り返りと自己評価について、グループディスカッション等のグループワークを通して実習からの学びの情報交換をする。</p> <p>【事前学習】 自身の実習の振り返りと自己評価の内容を他者に説明できるように簡単なシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 ディスカッションや情報交換からの学びも併せて今後の実習の取り組みの見通しを考察する。(0.5時間)</p>

30	評価表と自己理解・今後の課題	施設 担当 教員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと自己評価および実習先からの評価をベースに、施設実習の学びを「保育者の仕事」として理解を深め、以降の実習への課題に繋げていく。</p> <p>【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 単に児童福祉施設における保育者の仕事ではなく、幼稚園や保育所においても必要とされる広義の保育者の役割と仕事の理解に繋がる考察をする。（0.5時間）</p>
----	----------------	----------------	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究 I		飯塚 恭一郎		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1220		
		担当教員	飯塚恭一郎・青沼典子・古野愛子・畠中智恵					
幼	科目	領域および保育内容の指導法に関する科目						選択
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						選択
【キーワード】		【概要】						
1	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 「人との関わり」について、自らの経験や出会いをもとに、保育者の専門性として理解していく。 サービスマーケティングを通して実際の子どもの触れ合いや遊びを体験する。 保育や教育における基礎的な技術・技能の必要性を知り、演習を通して保育技術習得の意欲を高める。 						
2	子ども理解							
3	自然							
4	遊び							
5	実践							
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> 保育の仕事に不可欠な人との関わりについて考えることができる。 サービスマーケティングや演習を通して保育に必要な専門的な技術や技能があることがわかり、その修得への意欲を持つ。 保育者に求められる資質に気づき、考えることができる。 						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	受講への取り組み方・意欲態度			課題提出・出席			合計	
評価割合 (%)	50%			50%			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。							
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。							
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。							
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。		
【教科書】 各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
【関連科目】 幼稚園・保育所 関連科目全般		
【受講心得】 実践学習、体験学習、グループ活動等は意欲的に取り組むこと。遅刻、欠席はしない		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス	飯塚 青沼	【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（0.5時間）
2 「フレッシュマンセミナー」参加と コミュニケーションワーク	青沼 飯塚 古野 島中	【学習内容】 学科内初年次教育授業「フレッシュマンセミナー」と兼ねてコミュニケーションワークに取り組む。 【事前学習】 「フレッシュマンセミナー」の資料に目を通し、授業プログラム内容を把握しておく。（0.5時間） 【事後学習】 ワークを通してコミュニケーションを図ることができた仲間について振り返り、自分の立つ位置を自覚する。（0.5時間）
3 自らのこれまでの人間関係を振り返る	古野 島中	【学習内容】 これからの学校生活、今までの人間関係、今後の希望など自分で振り返り、言葉や文章にして確認する。 【事前学習】 前回の授業内容全体の振り返りをはじめ、これまでの自分自身の学生生活の人間関係について簡単に総括しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内のワークにおいて言語化した自らのこれまでの人間関係に関わる経験を振り返っておく。（0.5時間）
4 これまでの人間関係を語り合う	古野 島中	【学習内容】 3回目の授業で言語化した自らの人間関係に関わる経験を、グループワークを通して他者に伝えると同時に他者の語りに耳を傾け理解に努める。 【事前学習】 自らの人間関係に関わる経験等を他者に伝えられるよう練習をするなど準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 グループワークを通して自分自身の人間関係的な理解と現実に変化があったかどうか振り返る。（0.5時間）
5 春の自然と子どもの遊び	青沼 古野 島中	【学習内容】 身近な春の自然に親しみ、植物（シロツメクサ）で冠やプレスレットを作るなどして自然物を使った「遊び」を実体験する。 【事前学習】 図鑑やネットを利用して春の植物など自然物にどのようなものがあるか調べておく。（0.5時間） 【事後学習】 春の植物を利用した遊びを自主的に繰り返し遊び込み、その技術を習得する。（0.5時間）

6	サービスラーニング① 「こどもまつり」への参加ガイダンス	飯塚	<p>【学習内容】 保育士養成課程の授業における「サービスラーニング」の意義について説明を受け、「こどもまつり」の概要と学生の役割分担を知る。</p> <p>【事前学習】 一般的なサービスラーニングについて文献資料やネットを活用し概要を把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「こどもまつり」実施要項資料を再読し、分担する役割と仕事について理解を深める。(0.5時間)</p>
7	サービスラーニング② 「こどもまつり」参加	青沼 飯塚 古野 島中	<p>【学習内容】 「こどもまつり」に参加し、コーナー遊びの環境設定や実際の子どもの遊びの実態を参与観察する。</p> <p>【事前学習】 実施要項資料をもとに「こどもまつり」における自らの動きについてシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「こどもまつり」における参与観察のメモや記録を整理しておく。(1.5時間)</p>
8	サービスラーニング③ 「こどもまつり」参加		
9	サービスラーニング④ 「こどもまつり」を振り返る	青沼 飯塚 古野 島中	<p>【学習内容】 サービスラーニング「こどもまつり」での子どもの様子について振り返り、子どもの姿やつぶやきを言語化する。また、振り返りの内容についてグループワークによって情報交換を行い、子どもの姿の理解を進める。</p> <p>【事前学習】 「こどもまつり」におけるメモや記録をもとにして、振り返りの内容を自分なりにイメージしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループワークでの情報交換の記録やメモをもとに子どもの遊びの実態について理解を深める。(0.5時間)</p>
10	サービスラーニング⑤ 「秋のこどもまつり(仮)」 ガイダンス	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 「秋」をテーマにしたサービスラーニング演習の概要と基本プランについて説明を受け、演習の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 「こどもまつり」をベースに保育テキストや文献資料を参考にコーナー保育について調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 秋をテーマにしたコーナー遊びについて、題材になるものを調べる。(0.5時間)</p>
11	サービスラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 企画・相談	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 「秋」をテーマにしたサービスラーニング演習の実施に向けてグルーピングを行い、コーナー遊びの企画と内容を話し合う。</p> <p>【事前学習】 秋をテーマに調べた題材でコーナー遊びを展開する具体的なアイデアを練っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループでの話し合いの記録をもとに、メンバーで協同していく準備作業内容を整理する。(0.5時間)</p>
12	サービスラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 準備(1)	古野 島中	<p>【学習内容】 グループ毎に、担当するコーナー遊びの準備作業をメンバーで協同的に進めていく。</p> <p>【事前学習】 具体的な準備作業工程や役割分担等を再確認しておく。(1.0時間)</p> <p>【事後学習】 後期に設定されている準備期間も含め、準備作業の進捗状況を正しく把握し、準備の見通しを明らかにしておく。(1.0時間)</p>
13	サービスラーニング⑥ 「秋のこどもまつり(仮)」 準備(2)		

1 4	<p>基礎的な保育技術の習得に向けて 「絵本読み聞かせ」「パネルシアター」 (夏休みの課題説明)</p>	<p>青沼 飯塚</p>	<p>【学習内容】 保育技術としての「絵本の読み聞かせ」「パネルシアター」について説明を受け、その保育技術の保育的効果を知る。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ保育テキストや文献資料等を参考に、具体的に絵本やパネルシアターについて調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料や実際の絵本やパネルシアターに触れてみるなどして保育教材の扱いを実体験する。(0.5時間)</p>
1 5	<p>基礎的な保育技術の習得に向けて 「手袋シアター」 (夏休みの課題説明)</p>	<p>青沼 飯塚</p>	<p>【学習内容】 保育技術としての「手袋シアター」について説明を受け、その保育技術の保育的効果を知る。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ保育テキストや文献資料等を参考に、具体的に手袋シアターについて調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料や実際の手袋人形等に触れてみるなどして保育教材の扱いを実体験する。(0.5時間)</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現 I		小野 弥生		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1222		
		担当教員	小野 弥生、水崎 玄					

幼	科目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		選択必修

【キーワード】	【概要】
1 譜読み	保育・教育現場の実践（演奏）が円滑に行われるための必要不可欠な「楽典」を学ぶ。 又、併せて「声楽」の分野にも触れ、正しい声の出し方や正確な音程での歌い方等を学 び、現場で実践できる様々な歌を情感豊かに歌える技能を身につける。 授業は1コマを前 半後半に分け、「楽典」と「声楽」を学ぶ。
2 音楽の仕組み	
3 演奏法	
4 発声法	
5 表現	

【到達目標】
1. 音楽の基礎知識を習得し、実際のピアノ演奏に役立てることができる。
2. 声楽の分野に触れ、正しい声の出し方を学び様々なジャンルの曲を歌う事ができる。
3. 総合的な音楽教育法を身につけ、現場で実践する事ができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験の「楽典」	「声楽」	受講態度	合計
評価割合 (%)	50	30	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】

「楽典」理解不足の生徒に対しては授業形式で追加の説明をする。「声楽」課題発表時に改善点を指導する。

【教科書】

『あなたも弾けるやさしい童謡唱歌集』著 豊辻晴香他
『これだけは知ってほしい楽典 初めの一步 保育士、幼稚園・小学校教諭を志す人たちへ』
著 田中美江他 カワイ出版

【参考書・参考資料等】

『こどものうた200』『続・こどものうた200』小林美実 編者 チャイルド本社

【関連科目】

「音楽表現Ⅱ～Ⅳ」 「子どもの表現」 「音楽表現指導法」

【受講心得】

積極的に授業参加を心がけ、毎回の授業での不明な点は、随時質問する事。

【備考】

保育士課程 選択必修

【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	全員	「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞授業の進め方と内容の説明。プリントによる楽典に対する習熟度の確認。 ＜事前学習＞テキストに目をとおしておく。（1時間） ＜事後学習＞課題曲の譜読みをする。（1時間）
2	五線譜と音名・腹式呼吸の説明と発声の基礎	全員	「楽典」＜学習内容＞基本的な楽譜の記号の名称と音名。 ＜事前学習＞テキストp4～p7を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音符から音名が読めるようにしておく（1時間） 「声楽」＜授業内容＞呼吸法と発声法のトレーニングをする。＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞課題曲を一人で歌えるように練習する。授業の到達目標を参考に自己の目標を設定する。（1時間）
3	音の長さ・発声練習「春の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞前回の復習。音の長さや表記法。 ＜事前学習＞テキストp7～p16を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音名と長さを必ず覚える（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法①課題曲発表。春の歌。 ＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習をする。（1時間） ＜事後学習＞春の歌を歌えるように練習する。（1時間）
4	リズムと拍子・発声練習「夏の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞前回の復習。リズムの取り方と表記。 ＜事前学習＞テキストp19～p24を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞前回と同じく、音名と長さを必ず覚える（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法①春の歌発表。夏の歌。 ＜事前学習＞春の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞夏の歌を歌えるように練習する。（1時間）
5	これまでのまとめ・発声練習「秋の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞今までの復習。小テスト形式。 ＜事前学習＞テキストp4～p24を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞プリントで間違った部分を必ず理解する（1時間） 「声楽」＜学習内容＞発声法②夏の歌発表。秋の歌。 ＜事前学習＞夏の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞秋の歌を歌えるように練習する。（1時間）

6	音程・発声練習・「冬の歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞2音間の距離。8回目授業の説明。 ＜事前学習＞テキストp27を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞音名と長さの確認し、鍵盤と連動させる（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法②発表会の準備、冬の歌。 ＜事前学習＞秋の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞グループで発表会の準備をする。（2時間）</p>
7	発表会のためのグループワーク	全員	<p>「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞グループによる発表会の準備、練習をする。 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。（2時間） ＜事後学習＞グループで発表会の練習をする。（2時間）</p>
8	発表会	全員	<p>「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞発表会 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。（2時間） ＜事後学習＞冬の歌を歌えるように練習する。（1時間）</p>
9	音階と調・子どもへの歌唱指導法	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞曲の雰囲気などを決定する調性の説明。 ＜事前学習＞テキストp35～p42を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞日本語での音名を確認。（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法③冬の歌発表、歌唱指導法。 ＜事前学習＞冬の歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞ハンドサインを入れた歌の練習をする。（1時間）</p>
10	和音・発声練習「行事の歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞音楽の色を決める和音の説明。 ＜事前学習＞テキストp43～p50を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法③ハンドサインを入れた歌の発表。行事の歌。 ＜事前学習＞ハンドサインを入れた歌の練習。（1時間） ＜事後学習＞行事の歌を歌えるように練習する。（1時間）</p>
11	コードネーム・発声練習「わらべ歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞英語で和音を表記。 ＜事前学習＞p27.28とp51を読んでおく（1時間） ＜事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法④行事の歌発表。わらべ歌等。 ＜事前学習＞行事の歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。</p>
12	様々な表示法・手話を用いた歌や手遊び歌	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞言葉で表記されているものを理解する。 ＜事前学習＞テキストp57～p61を暗記する（1時間） ＜事後学習＞p63をして、暗記する。（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法④わらべ歌発表。手遊び歌等。 ＜事前学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞手遊び歌を歌えるように練習する。</p>
13	教員による公演鑑賞・楽典の復習	全員	<p>「楽典」「声楽」＜学習内容＞教員による公演を鑑賞する。 ＜事前学習＞今までのテキストを読み直す。手遊び歌を歌えるように練習する。（1時間） ＜事後学習＞今までのテキストを読み直す。歌唱表現について考える。手遊び歌を歌えるように練習する。（1時間）</p>

1 4	楽典の復習・発表会や身体表現の歌	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞今までの総復習をテスト形式で実施。</p> <p>＜事前学習＞授業で使用したプリント等を全て確認（1時間）</p> <p>＜事後学習＞間違ったところを理解する（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞手遊び歌発表。発表会の歌等。</p> <p>＜事前学習＞手遊び歌を歌えるように練習する。（1時間）</p> <p>＜事後学習＞発表会の歌等を歌えるように練習する。（1時間）</p>
1 5	総まとめ・試験対策	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞今までの総復習をテスト形式で実施。</p> <p>＜事前学習＞授業で使用したプリント等を全て確認（1時間）</p> <p>＜事後学習＞間違ったところを理解する（1時間）</p> <p>「声楽」＜学習内容＞総復習、試験対策。</p> <p>＜事前学習＞発表会の歌等を歌えるように練習する。（1時間）</p> <p>＜事後学習＞試験曲を歌えるように練習する。（1時間）</p>
1 6	試験		

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
音楽表現Ⅱ		豊辻 晴香	1	前期	演習	選択	1	
		担当形態	複数教員		ナンバリング	CE1233		
		担当教員	下村恭子・多田裕子・豊辻晴香 福田陽子・水崎玄・淀川典子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						選択必修
【キーワード】		【概要】						
1	ピアノ演奏	少人数のクラス編成で、各自のレベルに合わせマンツーマンのピアノ指導を行う。基礎となるスケール・カデンツをしっかりと学び、それらを活用したコードネームの和音で弾き歌いができるようにする。クラス内、又は全体で定期的に発表会を経験する事で、人前での演奏に慣れるとともに、様々な楽曲の知見を深める。						
2	弾き歌い							
3	読譜力							
4	スケール（音階）							
5	コードネーム							
【到達目標】		1. 正しい読譜力や適切な運指法を身につけ、ピアノを演奏できる。 2. ピアノを弾きながら歌う事ができる。 3. 実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を音楽的に表現し、子どもの前で演奏できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性	
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○	
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○	
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	取り組み姿勢・授業態度			実技試験		合計		
評価割合（%）	60			40		100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を活かし優れた演奏である。							
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を活かした演奏である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれない演奏である。							
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる演奏である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実技試験の評価について、口頭もしくはコメントなどで伝える。		
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社		
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」「音楽表現指導法」「子どもと表現」		
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
【備考】 保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 入学前課題曲発表会 および オリエンテーション	各教員	<学習内容>入学前に配付された課題曲を演奏する。また、本授業の目的や進行等について理解する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
2 ピアノ演奏の基礎①	各教員	<学習内容>ハ長調の音階とコードを学ぶ。そしてハ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3 ピアノ演奏の基礎②	各教員	<学習内容>ト長調の音階とコードを学ぶ。そしてト長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4 ピアノ演奏の基礎③	各教員	<学習内容>ニ長調の音階とコードを学ぶ。そしてニ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
5 ピアノ演奏の基礎④	各教員	<学習内容>ヘ長調の音階とコードを学ぶ。そしてヘ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6 園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い①	各教員	<学習内容>実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
7 園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い②	各教員	<学習内容>実践に必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

8	全体発表会	各教員	<p><学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。</p> <p><事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
9	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い③	各教員	<p><学習内容>実践に必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
10	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い④	各教員	<p><学習内容>実践に必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
11	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎①	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
12	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎②	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
13	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎③	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
14	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎④	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
15	試験に向けての課題曲総仕上げ	各教員	<p><学習内容>これまでの合格曲の把握し、より音楽的に試験曲を演奏できるよう練習する。</p> <p><事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
16	実技試験		

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習指導		難波 章人	1	通年	演習	選択	1
		担当形態	オムニバス		ナンバリング	CE1224	
		担当教員	青沼典子（実務家） 谷川裕子 難波章人				
幼 保	科 目	教育実践に関する科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実習					
保	系 列						
【キーワード】		【概要】					
1	教育実習	教育実習は教育・保育を行う現場を直接体験することができる貴重な機会である。そのために実習においては何を観察し、何を学びとするのかを明確にすることでより充実した実習を行うことができるようになる。そこで本授業では教育実習を行うための事前指導として現場に出るための心構えを学び、保育の観察の仕方、子どもの遊びの展開と保育の構造化と指導計画の立案、具体的な指導方法の研究を学びとして、教育実習に求められる知識・技能・態度を具体的な演習形式で学ぶ。また実習後には実習を振り返り、学びを深める。					
2	幼稚園						
3	事前指導						
4	事後指導						
5	観察						
【到達目標】		1. 教育実習の意義や目的が理解できる。 2. 日誌における観察の視点を理解し、記録することができる。 3. 実習の手続き等自主的に進めることができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	取り組み姿勢		提出物		合計		
評価割合 (%)	60%		40%		100		
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	

評語	評価の基準	
S	幼稚園教諭を目指すという明確な目標を持ち、なおかつ主体的に取り組む。講義内容も十分に理解している。	
A	実習生としての自覚を持ち、課題に対して必要な内容を理解している。	
B	実習内容を総じて理解し、課題に対して取り組んでいる。	
C	実習内容を理解しており、課題に対して最低限の評価が可能である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
【教科書】 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 『幼稚園教育要領解説』 文科省フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 適宜紹介		
【関連科目】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」		
【受講心得】 教育実習を前提とした科目であるため、特別な理由を除き欠席することなく参加すること。 欠席した場合は授業内容を担当教員に確認すること。		
【備考】 幼稚園教諭課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	青沼	【学習内容】 幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習の意義・目的を確認する。 【事前学習】 幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
2 実習における心構え・姿勢・作法	谷川	【学習内容】 実習において学びの明確な目標を持ち、保育者をめざす姿勢を具体的に学びます。 【事前学習】 実習手引き第3章を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
3 実習園の選定・概要および個人調書の記入	難波	【学習内容】 実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。 【事前学習】 自身の履歴を確認しておく。（1時間） 【事後学習】 書類の書き上げ（1時間）
4 観察記録の意義・視点について	青沼	【学習内容】 実習における観察の際の視点とその記録方法について学びます。 【事前学習】 記録の仕方について調べておく。（1時間） 【事後学習】 学習内容を振り返り整理する。（1時間）
5 保育技術の習得	青沼	【学習内容】 現場で即実践できるペープサートや絵本、手遊び等を実践する。 【事前学習】 手遊び等の練習（1時間半） 【事後学習】 自己課題を記述する。（0.5時間）

6	指導案の立案	青沼	【学習内容】 発達に応じた指導案を立案する 【事前学習】 発達に応じた子どもの姿を調べておく。(1時間) 【事後学習】 立案の見直し (0.5時間)
7	教育実習 I における評価	谷川	【学習内容】 教育実習 I における記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す 【事前学習】 教育実習日誌を振り返る。(0.5時間) 【事後学習】 学習内容を振り返り整理する。(0.5時間)
8	教育実習 I の振り返り	難波	【学習内容】 教育実習の振り返りを小グループで行い、意見をまとめ全体で発表する。 【事前学習】 教育実習日誌を振り返る。(0.5時間) 【事後学習】

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「教育実習指導」、「子どもと言葉」、「子どもの心理学」、「教育実習 I」、「教育実習 II」、「保育・教職実践演習」		

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
教育原理		今村 隆信	1	後期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング	CE1202	
		担当教員	今村 隆信				

幼	科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的・制度的または経営的事項（学校と地域の連携及び学校安全への対応を含む。）	必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系列	保育の本質・目的に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】
1 教育の概念	教育の基本的な概念、目標を知り、理論的側面である歴史的背景に基づく、「教育史、教育思想、教育理念」等を扱い、現代の教育に至る歴史的経緯や過程について学ぶ。また、現代の教育が抱える諸問題や実践例をめぐり、教育の意義と課題を認識し、背景にある社会状況について理解を深める。さらに、教育の目標を達成するための学校経営、学級経営、安全教育、危機管理といった「学校マネジメント」について実践例を基に学ぶ。そして、学校・家庭・地域の連携・協働による教育の新しい動向についても理解を深める。
2 教育の歴史	
3 教育の思想	
4 学校安全への対応	
5 教育の新しい動向	

【到達目標】
1. 教育原理の包括的な理解について、理論的側面と実践的側面から説明できる。
2. 理論的側面に関しては、先人の教育観等を理解する活動を通して、教育の意義や在り方について説明できる。
3. 実践的側面に関しては、現代の教育が抱える諸問題や実践例をめぐり、背景にある社会状況及び教育の意義と課題を説明できる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	確認テスト・受講態度	合計
評価割合 (%)	60	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 毎回、確認テストを実施し、学習内容の定着を図る。		
【教科書】 適宜、資料を配布		
【参考書・参考資料等】 必要に応じて、自作の資料を提供		
【関連科目】 保育原理、保育者論、教育方法論		
【受講心得】 私語を慎み、講義のメモを取り、集中すること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 教育の基本的概念① ～教育とは何か～		【学習内容】オリエンテーションとして、全体の流れを確認し、授業に対する意欲を高める。教育とは何か。その意義と必要性、人間の発達段階と教育の在り方等について学ぶ。 【事前学習】シラバスを確認しておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
2 教育の基本的概念② ～教育の目的・目標～		【学習内容】何のための教育かを憲法、教育基本法、幼稚園指導要領、保育所保育指針から教育の目的や目標を抜き出し、子どもの発達段階におけるそれぞれの目標を整理し、理解を深める。 【事前学習】本時の内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
3 教育の基本的概念③ ～教育を成立させる要素～		【学習内容】子ども、家庭、地域、教員など教育を成り立たせている要因とその現状、課題について理解する。また、子どもの発達とその発達課題を基に、教育を成り立たせている要因の相互関係についても理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
4 教育の歴史① ～学校の意味と成り立ち～		【学習内容】教育が行われるようになった歴史的背景を理解し、学校ができてきた経緯と学校の意味について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
5 教育の歴史② ～日本の学校の歴史～		【学習内容】日本における学校の成り立ちから近代以前の学校教育制度を通して、日本の近代化と学校教育の歴史、戦後の教育改革について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
6 教育の歴史③ ～現代の教育課題～		【学習内容】教育の歴史を踏まえて、現代における教育課題を明確化する。特に、教育基本法改正の経緯やその内容について学習し、社会の変化と教育施策の動向について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）
7 教育の思想① ～教育家の諸思想～		【学習内容】世界の幼児教育・学校教育に影響を与えた、コムニウスの直感教育、ルソーの自発学習、ペスタロッチの開発教授、フレーベルの自己活動の原理、デューイの児童中心主義について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。（1時間）

8	教育の思想② ～日本における教育思想～		<p>【学習内容】「教育方法の現代化」での初期の取り組みと教材プログラムの開発、「問題解決学習」「プログラム学習」「発見学習」など様々なアプローチが開発されてきたことを理解する。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
9	教育と社会 ～学校教育と現代社会の状況～		<p>【学習内容】生涯学習社会の構築が言われる今、学校地域創生プランに示された学校教育の施策の動向について理解を深める。また、生涯学習の理念についても学習する。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
10	教育と制度 ～教育行政の仕組みと改革動向～		<p>【学習内容】国の教育行政、地方の教育行政の仕組みと教育行政の改革動向について理解を深める。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
11	教育の経営 ～カリキュラム・マネジメントと学校経営～		<p>【学習内容】教育課程納品編成と学習指導要領の関係。学校経営の課題や学校評価、開かれた学校づくりなどの観点から、学校経営の改革とその課題について理解を深める。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
12	教育の経営 ～学級経営とマネジメント～		<p>【学習内容】学級経営の意義ととねらい、学級経営の内容、学級経営の評価、保護者との連携等についてのマネジメントを学習する。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
13	学校と地域の連携・協働 ～コミュニティ・スクール、学校運営協議会制度と地域学校協働活動～		<p>【学習内容】地域と学校の連携協働について、現在の教育の動向である、コミュニティ・スクールと学校運営協議会制度、新たな取り組みとしての地域学校協働活動について理解を深める。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
14	学校安全 ～危機管理と事故対応～		<p>【学習内容】危機管理の定義、必要性、危機管理の体制の在り方や学校管理下の自己とその対応、さらに、学校が避難所になったときの対応等について理解を深める。</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
15	学校安全 ～安全管理と安全教育～		<p>【学習内容】学校安全のねらいとそれを達成するための、安全教育、安全管理、組織活動について、その内容と方法について理解を深める</p> <p>【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】確認テストの見直しによって定着を図る。(1時間)</p>
16	定期試験		15回の講義の内容と確認テストの中から問題を作成し、定期試験とする。

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
社会福祉	是松 いづみ	1	後期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1204	
	担当教員	是松 いづみ				
幼	科目					
	施行規則に定める科目区分 又は事項等					
保	系列	保育の本質・目的に関する科目				必修
【キーワード】		【概要】				
1	高齢者福祉	本格的な少子高齢化を迎え、現代家族のあり方も大きく変容している。社会福祉分野のひとつでもある保育も、核家族化への変化のなかで家族全体を支援する社会的サービスとしてますます重要視されている。次世代を担う乳幼児とその家族を支援する保育士が、社会福祉的視点と知識について学び、より広い視野をもった援助者となることが期待されているため、この講義では、国内外の社会福祉の制度とサービスについて学び、社会福祉的視点を持つことを目的とする。				
2	障害児・者福祉					
3	こども福祉					
4	公的扶助					
5	社会保障					
【到達目標】		1. 現代社会の問題と社会福祉の関連について学ぶ。 2. 社会福祉の諸分野と制度、サービスについて学ぶ。 3. 社会福祉分野における保育士の役割、位置づけ、期待されていることについて学ぶ。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	出席・授業態度	課題レポート	試験	合計		
評価割合 (%)	20	30	50	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 授業中に課題を提示し、授業中に返却する。		
【教科書】 『社会福祉と私たちの生活—保育を学ぶ人のために』 小林育子・一瀬早百合共著 萌文書林		
【参考書・参考資料等】 『保育士のための社会福祉』 成清美治編著 学文社 『保育士をめざす人の社会福祉』 相澤譲治・杉山博昭編 みらい出版 『保育者のための社会福祉』 小林育子著 萌文書林 『子ども理解と保育実践 子どもを知る 自分を知る』 塚本美知子他著 萌文書林		
【関連科目】 「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「子ども家庭支援論」、「保育実習（施設）」		
【受講心得】 わたしたちの生活に「社会福祉」がどのようにかかわっているのか、自分の生活を振り返りながら「社会福祉とは何か」を授業を通して学んで行きましょう。		
【備考】 卒業必修科目、保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要 第1章 保育と社会福祉 §1 私たちのライフコースと社会福祉 §2 私たちの生活 第2章 社会福祉の意義と歴史の変遷 §1 社会福祉の理念と概念		(1) 学習内容 ・社会福祉で学ぶ内容を把握し、私たちの生活に社会福祉が関わっていることを知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前にテキストの「はじめに」「目次」をよく読んでくること。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
2 第2章 社会福祉の意義と歴史の変遷 §2 社会福祉の歴史の変遷		(1) 学習内容 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷についてイギリスとアメリカの社会福祉の歴史の変遷より学ぶ。 ・日本の社会福祉の戦前から近年までの道筋について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p14～p25をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
3 第2章 社会福祉の意義と歴史の変遷 §3 現代社会における生活問題		(1) 学習内容 ・現代社会の問題を事例（貧困、障がい、生活の変化）を通して具体的に学ぶ。 ・日本家族の変遷、少子化と子育て、経済不況と貧困の問題を資料から読み解く。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p26～p44をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
4 第3章 社会福祉の制度と実施体系 §1 社会保障および社会福祉の制度と法体系 §2 社会福祉行政と実施機関		(1) 学習内容 ・広義の社会福祉と狭義の社会福祉それぞれの目的や特徴を把握し、専門行政機関、組織とどのように繋がっているのかを学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p45～p59をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
5 第3章 社会福祉の制度と実施体系 §3 社会福祉施設の種類と基準 §4 社会福祉の専門職・実施者		(1) 学習内容 ・社会福祉の政策と財政について学ぶ。 ・社会福祉専門職とその資格要件、その他の社会福祉従事者について知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p60～p79をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。

6	第4章 社会福祉と児童家庭福祉 §1 社会福祉の一分野としての「児童家庭福祉」 §2 児童の人権擁護と社会福祉	(1) 学習内容 ・児童家庭福祉の意味を知り、子どもと家庭のおかれている現状を理解する。 ・子どもの権利について学び、福祉課題を掴む。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書 p 81～p90をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
7	第4章 社会福祉と児童家庭福祉 §3 家庭支援と社会福祉	(1) 学習内容 ・家庭の福祉課題を統計から読み解き、児童福祉による施策を知る。 ・ひとり親家庭の福祉の課題と支援を理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p91～p108をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
8	第5章 社会福祉の各分野 §1 障害児・者の福祉	(1) 学習内容 ・障害のある人の福祉の制度、サービスについて学ぶ。 ・出生前診断についてその課題を知り、自分の考えをもつことができる。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p110～p129をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
9	第5章 社会福祉の各分野 §2 高齢者の福祉	(1) 学習内容 ・高齢者の福祉の理念、法体系について学ぶ。 ・介護保険制度ができた経緯を知りその課題について、考えることができる。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p130～p139をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
10	第5章 社会福祉の各分野 §3 低所得者の福祉	(1) 学習内容 ・低所得者と生活保護の現状とその実施体制について学ぶ。 ・その他の低所得者福祉サービスについて理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p140～p149をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
11	第5章 社会福祉の各分野 §4 その他の分野	(1) 学習内容 ・地域福祉と医療福祉の現状と課題について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p150～p158をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
12	第6章 社会福祉における相談援助 §1 相談援助の意義と原則	(1) 学習内容 ・社会福祉の領域で用いる援助技術を体系的に学ぶ。 ・生活課題を抱える子育て家庭に対して、相談援助の技術を身につけて支援できるように学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p159～p173をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
13	第7章 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ §1 情報提供と第三者評価	(1) 学習内容 ・福祉サービスを利用する人々の権利擁護と、支援者と利用者の対等な関係を守る方法について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p176～p182をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。

14	第8章 社会福祉の動向と課題 §1 少子高齢社会への対応 §2 在宅福祉・地域福祉 §3 保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク	(1) 学習内容 ・社会福祉の現状と今後の課題について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p184～p207をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
15	学んできた社会福祉についてまとめる。 ・社会福祉の意義 ・社会福祉の制度と実施体系 ・社会福祉と児童家庭福祉	(1) 学習内容 ・学習プリントで学んだ事をたどりながら、社会福祉と私とのかかわりをまとめる。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に今まで学習してきたプリントや資料をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・本日の講義のポイントを学習プリントにまとめ感想を書く。
16	試験	学習プリントをよく読んで、復習しておくこと。

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭支援の心理学		畠中 智恵	1	後期	講義	選択	2
		担当形態	オムニバス		ナンバリング	CE1207	
		担当教員	畠中 智恵、細川 美幸				
幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目					必修
【キーワード】		【概要】					
1	子ども	本授業で学ぶべきことは、「人との相互的な関わりと子どもの発達」「子どもの精神保健」「家庭の意義と機能・子育て家庭を取り巻く社会状況」である。生後から周囲の人と関わりながら人間が発達していく様子、発達と共に家庭の中でどのような楽しみや困り感が生まれるのかをまず理解する。そして、現代の子どもと家庭を取り巻く状況や、さまざまな事例の理解と支援の方法について学ぶ。					
2	生涯発達						
3	家庭支援						
4	家族システム						
5	心身の健康						
【到達目標】		1. 人間の生涯発達を理解し、子どもの身体と心の健康について理解する。 2. 現在の子どもと家庭を取り巻く状況について理解する。 3. 配慮を必要とする家庭の理解と支援の方法について理解する。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもと心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
【成績評価の方法】							
成績指標	定期試験	受講への取組み（出席）	提出物	合計			
評価割合（%）	60	20	20	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 試験終了後、試験の講評及び解説を行う。		
【教科書】 『子ども家庭支援の心理学』本郷一夫・神谷哲司編著 建帛社		
【参考書・参考資料等】 特になし。ただし、日常的に新聞やニュースに関心を持ち、事前学習などの参考にすること。		
【関連科目】 「子どもの心理学」「子ども理解の方法」「子ども家庭支援論」		
【受講心得】 ニュースや新聞記事などに関心を持つこと。自分の体験を振り返り言語化すること。受講仲間を尊重し、対話や傾聴の努力をすること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション～「子ども家庭支援の心理学」	畠中・細川	<学習内容>授業の進め方の説明と、子ども家庭支援の心理学の概要について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読んでおく。(30分) <事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
2 子どもの発達と家庭①生まれてからの1年	細川	<学習内容>新生児期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
3 子どもの発達と家庭②1歳半の節、2～3歳	細川	<学習内容>乳児期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
4 子どもの発達と家庭③4歳半の節、5～6歳	細川	<学習内容>幼児期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
5 生涯発達／思春期～青年期～成人期～高齢	畠中	<学習内容>生涯発達の視点から、思春期以降の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)
6 家族システム／現在・過去・未来	畠中	<学習内容>生涯発達の視点から、思春期以降の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。 <事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間) <事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)

7	養育スタイルの形成過程と世代間伝達	島中	<p><学習内容>養育スタイルの世代間連鎖について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
8	多様な子育て家庭への支援	島中	<p><学習内容>子育て家庭への支援について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
9	配慮を必要とする家庭への支援①虐待・貧困	細川	<p><学習内容>虐待や貧困への支援について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
10	配慮を必要とする家庭への支援②障害・その他	細川	<p><学習内容>障害を持つ子どもの家庭への支援について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
11	支援の基本／話の聴き方	島中	<p><学習内容>支援の方法の基本について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
12	子どもの身体と心の健康①基本的な生活習慣	島中	<p><学習内容>子どもの心身の健康について、基本的な生活習慣の視点から説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
13	子どもの身体と心の健康②心の健康	細川	<p><学習内容>子どもの心身の健康について、心の健康の視点から説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
14	子どもの身体と心の健康③災害と子ども	島中	<p><学習内容>子どもの心身の健康について、災害の視点から説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
15	まとめ	島中	<p><学習内容>これまでの授業のまとめを行う。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子ども理解の方法		田尻 由美子		1	後期	演習	選択	1
		担当形態	オムニバス	ナンバリング		CE1208		
		担当教員	田尻 由美子					
幼	科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	幼児理解の理論及び方法						
保	系列	保育の対象の理解に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	幼児理解	幼児理解においては、まず子どもとの関わりを持つことが重要です。この授業では多くの事例や映像資料を用いるとともに実際に幼稚園・保育所・地域子育て支援施設等を訪問し、子どもと触れ合いながら具体的に子どもの姿や保育者の関わりを理解していきます。また、幼児理解の持つ意義・意味について、幼児教育の充実、小学校教育との連続性、家庭支援などにとって重要であることを確実に学んでいきます。						
2	内面							
3	発達							
4	観察							
5	記録							
【到達目標】		1. 子どもの心身の発達や生活・遊びにおいて子どもを理解する基本的な考え方を理解する 2. 子どもを理解するための具体的な内容を理解する 3. 子どもの理解に基づく保育者の基本的な援助、態度を理解する						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性						
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
【成績評価の方法】								
成績指標	課題・提出物・受講態度			定期試験			合計	
評価割合 (%)	40			60			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績		受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	演習内容を十分に理解しており、課題等に対して的確に取り組み、設問にも正確に解答できる。							
A	演習内容を理解しており、課題等に対して十分に取り組み、設問にもほぼ正確に解答できる。							
B	演習内容を総じて理解しているが、課題等に対してやや不十分で、設問に不正確な解答が見られる。							
C	演習内容の概要を理解しているが、課題等や設問に対しては最低限の評価に留まる。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
定期試験結果：到達目標に到達していない場合は結果を開示し、個別に具体的課題を解説する。 授業中の小テスト・レポート：随時返却し解説する。		
【教科書】		
『幼児理解に基づいた評価』 文部科学省 チャイルド本社		
【参考書・参考資料等】		
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館		
【関連科目】		
「保育内容全般」「子どもの心理学」「実習および実習指導全般」		
【受講心得】		
学習内容を実習や保育現場で応用し、実践できるよう学んでください。毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなどして、日常の学習を大切にしてください。教科書を熟読してください。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション、子どもを理解すること①		学習内容 オリエンテーション（授業概要、到達目標、受講の心得や評価など） 「子どもを理解することの意義」、「幼児教育の充実のための基本であること」などを理解する 事前学習 教科書の2～4ページを読んでおく（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）
2 子どもを理解すること②		学習内容 前回に引き続き「子どもを理解することの意義」、「幼児教育の充実のための基本であること」などを理解する 事前学習 教科書の5～11ページを読んでおく（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（1時間）
3 子どもの内面を知る①エピソードから子ども理解のために保育者に求められるものの		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ 事例①DVD「新入園の頃」を視聴しレポートを記入後、グループで意見交換し発表して共有する 「保育者が子どもを理解するために必要な心構えやとるべき態度など、求められるものとはなにか」を理解する 事前学習 教科書の14～17ページを読んでおく（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）
4 子どもの内面を知る②エピソードから子ども理解のために内面を知る重要性		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ 事例②DVD「ケンカもいろいろ」を視聴しレポートを記入後、グループで意見交換し発表して共有する 「保育者になったつもりで子どもの内面を推察してみ、子ども理解に必要なこととはなにか」を理解する 事前学習 教科書の18～23ページを読んでおく（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）
5 子どもの内面を知る③エピソードから子ども理解から保育を改善するとは		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ 事例③DVD「新記録と涙」を視聴しレポートを記入後、グループで意見交換し発表して共有する 「集団と個の成長を確かなものにするために保育者が行うべき保育の改善とはなにか」を理解する 事前学習 教科書の24～27ページを読んでおく（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）
6 子どもの発達と観察・記録の方法①		学習内容 「観察とは」について学ぶ 保育の場で子どもを「観察する」際の保育者のとるべき態度、留意すべき点について学ぶ 事前学習 教科書の30～43ページを読んでおく（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）

7	子どもの発達と観察・記録の方法②	<p>学習内容 「記録するとは」について学ぶ 記録をとることの意味、記録の書き方の実際などについて学ぶ</p> <p>事前学習 教科書の44～63ページを読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（0.5時間）</p>
8	子どもの発達と観察・記録の方法③ 記録のとり方のトレーニング	<p>学習内容 子どもの発達を学び、子ども理解における発達過程を知ることの意義と弊害を考える 記録のとり方のトレーニング</p> <p>事前学習 教科書の64～70ページを読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（1時間）</p>
9	事例から考える①（観察と記録の実際） 保育所の子どもの観察記録の実際	<p>学習内容 近隣の保育所を訪問し一対一で子どもを観察する 子どもの持ち味や行動などの様子を記録する</p> <p>事前学習 観察記録の練習しておく（0.5時間）</p> <p>事後学習 観察した内容を整理し記録用紙に清書しておく（1時間）</p>
10	事例から考える②（観察と記録の実際） 保育所の子どもの観察記録のまとめ	<p>学習内容 観察した子どもの記録をレポート用紙にまとめ、グループ内で意見交換し共有しつつ、代表の学生を決めてクラス全体に発表する準備を行う</p> <p>事前学習 前回に実施した保育所の子どもの観察記録を読んでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習 グループ内で共有した記録を振り返る（0.5時間）</p>
11	事例から考える③（観察と記録の実際） 記録の発表と共有	<p>学習内容 観察した子どもの記録をグループ内で評価しあったあと、代表の学生の記録をクラス全体に発表して、全員で共有する</p> <p>事前学習 グループ内で共有したレポートを参考にしながら、自身の保育所の子どもの観察記録を振り返る（0.5時間）</p> <p>事後学習 共有した代表者の観察記録を参考にしながら自身の観察記録を振り返る（0.5時間）</p>
12	五領域の視点から子どもを理解する 要録作成と小学校教育との連続性	<p>学習内容 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の作成と小学校教育への連続性について学ぶ 要録作成に必要な五領域の視点を学ぶ</p> <p>事前学習 教科書の71～87ページを読んでおく（1時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（1時間）</p>
13	保護者対応の方法①（受容・傾聴・共感）	<p>学習内容 家庭との連携における保育の記録の重要性 保護者への対応（受容・傾聴・共感）について学ぶ</p> <p>事前学習 教科書の70ページを読んでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（1時間）</p>
14	保護者対応の方法②（事例から）	<p>学習内容 家庭との連携における保育者の心構え 保護者への対応の実際について事例から学ぶ</p> <p>事前学習 配布資料を読んでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる（1時間）</p>
15	子ども理解の方法の振り返りとまとめ	<p>学習内容 1回から14回の授業内容を振り返り、要点をまとめる</p> <p>事前学習 今までのすべての内容についてノートや資料を整理し確認したうえで提出の準備を行っておく（1時間）</p> <p>事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを再度確認して熟読しておく（1時間）</p>
16	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの食と栄養 I		宅間 真佐代		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1210		
		担当教員	宅間 真佐代					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列	保育の対象の理解に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	栄養	子どもの食生活は、生涯の健康と生活の基盤であり、その後の心と身体の健康に大きな影響を及ぼす。健全な発育・成長を促すために必要な栄養及び食生活に関して学ぶとともに各発達段階の生理的変化についても理解する。また、栄養に関する基本的事項について理解を深める。						
2	食生活							
3	発育							
4	発達							
5	健康							
【到達目標】		1. 栄養の基礎知識について理解し説明できる。 2. 子どもたちの成長・発達に適した栄養について理解し説明できる。 3. 子どもの食事指導を行うための実践的な知識及び技術を理解し実践できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもたちの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験の成績			受講態度等			合計	
評価割合 (%)	85			15			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 試験終了後、模範解答を配付するので確認すること。		
【教科書】 『子どもの食と栄養』 林俊郎編著 一藝社 『子どもの食と栄養』 高内正子監修 保育出版社		
【参考書・参考資料等】 参考書：『子どもの食と栄養』 堤ちはる・土井正子編著 萌文書林 参考資料：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における食事提供のガイドライン』		
【関連科目】 『子どもと保健』『乳児保育』『子どもの心理学』『保育内容全般』『障害児保育』等		
【受講心得】 遅刻、欠席をしない。積極的な学習及び態度で臨む。理論と実習を通して、子どもの食と栄養についての理解を深めて欲しい。		
【備考】 保育士必修科目 理解度に応じて学習内容の変更を行う場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 子どもの健康と食生活の現状		<学習内容>子どもの健康と食生活の現状について説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
2 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
3 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
4 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。
5 栄養に関する基本的知識		<学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。 <事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間） <事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間） 自学により理解できない場合は質問をし解決する。

6	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。また、食事摂取基準と献立作成・調理の基本について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
7	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>講義の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
8	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
9	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
10	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
11	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
12	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
13	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
14	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>

1 5	子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育課程論		飯塚 恭一郎		1	後期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1211		
		担当教員	飯塚 恭一郎					
幼	科目	教育課程及び指導法に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に準拠しながら、保育・教育コンセプトとしての「教育課程・全体的な計画」と実際の保育の計画・設計図としての「指導計画」のそれぞれが明示する内容とその役割を理解する。 「発達」と「保育内容」を縦横の軸にする教育課程と全体的な計画の基本構造がわかる。 短期指導計画としての部分保育指導案の立案、記述の演習を通して「保育の構造化」の考え方を学んでいく。 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を捉えるための子どもの育ちの「評価」と計画の再編成の必要性を理解する。 						
2	全体的な計画							
3	指導計画							
4	指導案							
5	PDCAサイクル							
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> 教育課程・全体的な計画の示すものと指導計画が示すものについて説明することができる。 乳幼児の生活や遊び、発達の実態と教育課程・全体的な計画や指導計画がどう関連するのか説明できる。 保育・教育課程を基に指導計画を立案し、保育の構造化を考えることができる。 子どもの育ちを評価する視点を示し保育計画の再編成に生かしていく道筋を考えることができる。 						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計				
評価割合 (%)	40%	20%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。							
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が十分である。							
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。							
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題や演習については授業内で説明，講評をする。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『子どもの心によりそう保育・教育課程論』 鈴木昌世・佐藤哲也編著（福村出版）		
【関連科目】		
「保育原理」「保育内容総論」		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要，目標，スケジュール，評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（3時間）
2 教育課程・全体的な計画と指導計画		【学習内容】 保育・教育コンセプトとしての「教育課程・全体的な計画」と実際の保育の計画・設計図としての「指導計画」のそれぞれが表している内容の違いと役割を学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第3～4節など，教育課程・全体的な計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し，内容を熟読する。（3時間）
3 長期・中期指導計画とは		【学習内容】 各保育施設で編成されている長期あるいは中期の指導計画のサンプルをもとに，それぞれの指導計画が表している事柄やねらいを学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節など，長期・中期の指導計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し，とりわけ長期・中期計画において重要な「発達の道筋」の軸に着目して内容を熟読する。（3時間）
4 短期指導計画とは		【学習内容】 各保育施設で編成されている短期指導計画のサンプルをもとに，指導計画が表している事柄やねらいを学ぶ。 【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節など，短期の指導計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間） 【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し，とりわけ「保育のねらい」や「環境構成」など短期指導計画になるにつれ明確になってくる要素に着目して内容を熟読する。（3時間）

5	教育課程・全体的な計画の横軸としての「発達」	<p>【学習内容】 教育課程・全体的な計画の横軸として「発達」「子どもの育ちの道筋」があり、保育の計画の重要な基本構造を成していることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『保育所保育指針解説』第1章3など、指導計画が子どもの発達の理解に根ざすことが説明されている箇所にあらかじめ目を通しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理する。発達の道筋については他授業の同様の資料とも併せて内容を再読し理解を深める。(3時間)</p>
6	教育課程・全体的な計画の縦軸としての「保育内容」	<p>【学習内容】 教育課程・全体的な計画の縦軸として「保育内容」があり、保育の計画の重要なもうひとつの基本構造を成していることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章など、保育内容5領域について説明されている箇所にあらかじめ目を通しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理する。保育内容5領域については他授業の同様の資料とも併せて内容を再読し理解を深める。(3時間)</p>
7	6年間の全体的な計画を模擬的に編成する －専用演習シートによる編成－	<p>【学習内容】 「発達」と「保育内容」を縦横の軸にしたパズル状の「模擬編成シート」を使い、複数人で相談しながら全体的な計画を模擬的に編成する演習に取り組む。</p> <p>【事前学習】 これまで配布したプリント資料を再度読み返し、「発達」と「保育内容」の縦横の軸によって表している内容を押さえる。(1時間)</p> <p>【事後学習】 子どもの発達の姿とその時期にふさわしい保育内容がイメージできなかった箇所がなかったかなど、「模擬編成シート」演習を振り返っておく。(3時間)</p>
8	6年間の全体的な計画を模擬的に編成する －模擬編成シートの正解と解説－	<p>【学習内容】 前回授業で取り組んだパズル状の「模擬編成シート」の正解回答とその解説を聞き、子どもの発達の道筋と保育内容の関係について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 保育内容5領域を扱った他授業の資料等を活用し、保育内容と発達の道筋がどのように関連づけられているか見直してみる。(1時間)</p> <p>【事後学習】 「模擬編成シート」の正解と解説を元に、全体的な計画に描かれている子どもの姿のイメージとして、自分の理解がずれていたり勘違いしているところは何だったか入念に振り返り確認しておく。(3時間)</p>
9	保育の実際と流れ －模擬保育観察から捉える－	<p>【学習内容】 短期指導計画としての「部分指導案」の記述演習することを前提に、教員が保育者となって展開する模擬保育を実習生の立場で観察し、その保育記録を録る。</p> <p>【事前学習】 授業の中で配布した「部分指導案」サンプルを読み返しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 保育記録を模擬保育展開中に記録が追いつかなかった部分がないか確認し、記憶をたどって記録の補足記述をする。(3時間)</p>

1 0	部分指導案記述を試みる① －子どもの姿の予想(1)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した保育記録を元に、この保育展開をそのまま部分保育として「再現」という想定で、指導案の「予想される子どもの姿」の欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 再度、前回授業で記述した保育記録を読み直し、補足情報があれば書き込み、指導案記述の情報としての精度を上げておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料を読み直し、保育の流れを「枠」「ブロック」で捉え、大項目と小項目で記述するといった記述のポイント・コツの理解に努める。(3時間)</p>
1 1	部分指導案記述を試みる② －子どもの姿の予想(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した指導案の「予想される子どもの姿」欄の記述サンプルと解説をもとに「予想される子どもの姿」欄記述方法の理解を深める。</p> <p>【事前学習】 自分が記述した「予想される子どもの姿」欄を見直し、記述のポイント・コツに沿って書かれているかチェックしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で紹介された記述サンプルと解説をもとに自分の記述内容と比較し、理解の間違いや文章表現力不足が見える部分等を入念にチェックする。(3時間)</p>
1 2	部分指導案記述を試みる③ －保育者の援助と配慮(1)－	<p>【学習内容】 模擬保育の記録を元に、この保育展開をそのまま部分保育として「再現」という想定で、指導案の「保育者の援助と配慮」欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 模擬保育の記録を、実際に自分が保育者として保育を展開する前提で読み直し、保育者が何をしていたかを思い出しておく。1時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料を読み直し、「予想される子どもの姿」欄同様、保育者の動きを「枠」「ブロック」で捉え、大項目と小項目で記述するといった記述のポイント・コツの理解に努める。(3時間)</p>
1 3	部分指導案記述を試みる④ －保育者の援助と配慮(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した指導案の「保育者の援助と配慮」欄の記述サンプルと解説をもとに「保育者の援助と配慮」欄記述方法の理解を深める。</p> <p>【事前学習】 自分が記述した「保育者の援助と配慮」欄を見直し、記述のポイント・コツに沿って書かれているかチェックしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で紹介された記述サンプルと解説をもとに自分の記述内容と比較し、理解の間違いや文章表現力不足が見える部分等を入念にチェックする。(3時間)</p>
1 4	部分指導案記述を試みる⑤ －環境構成の考え方－	<p>【学習内容】 「環境構成」欄に記述すべきことを知り、その種類に沿って模擬保育記録をもとにして「環境構成」欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 他授業の資料等を活用し、環境を構成する種類には何があるか、あらかじめ確認しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 環境を構成する種類と、その要素を「環境構成」欄に記述するポイントを、配布プリント資料と自分が記述した指導案と併せて整理し、理解に努める。(3時間)</p>

1 5	育ちの評価と教育課程等の改善 ／授業のまとめ		<p>【学習内容】 子どもの育ちの評価をもとに、教育課程や指導計画はPDCAサイクルに乗せて改善を図っていかねばならないことを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第6節など、教育課程の改善について触れている箇所にあらかじめ目を通しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 他授業で触れている「子どもの育ちの評価」の説明等とも併せて、教育課程等の改善のPDCAサイクルについて理解を深める。(3時間)</p>
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容総論		飯塚 恭一郎		1	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1212		
		担当教員	飯塚 恭一郎					
幼	科 目	教育課程及び指導法に関する科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育内容5領域	<ul style="list-style-type: none"> 保育事例のエピソードやビデオ教材等を活用して子どもの「生活」と「遊び」における学びを保育内容5領域を視点に分析、考察を行い、保育内容の総合的な理解を深める。 保育のねらいを達成するための保育内容と環境構成をグループワークで立案し保育を構造化する演習を行う。 季節の園行事を題材に子どもたちと共通認識を図り情報提供をする保育場面を想定して、ペーパースートや紙芝居などの視覚教材作成等の研究とその指導のグループワークに取り組む。 						
2	生活							
3	遊び							
4	10の姿							
5	視覚教材							
【到達目標】		1. 保育による子どもの「学び」を保育内容5領域をもとに説明することができる。 2. ねらいを達成するための保育内容と環境構成を立案し保育を構造化することができる。 3. テーマや主題を前提にした保育のねらいや意図を伝えるための視覚教材を作製し活用できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○						
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○						
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験	課題・グループワーク	受講態度	合計				
評価割合 (%)	30%	30%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・グループワークの内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。							
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・グループワークの内容および試験の設問に対する解答が十分である。							
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・グループワークの内容および試験の設問に対する解答が平均的である。							
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・グループワークの内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題や演習については授業内で説明，講評をする。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】		
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『保育内容総論』 渡邊英則・大豆生田啓編著 ミネルヴァ書房		
【関連科目】		
「保育原理」「保育者論」「保育・教育基礎研究Ⅱ」 その他保育内容に関わる科目		
【受講心得】		
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス／5領域の視点について		【学習内容】 シラバスを元に授業の概要，目標，スケジュール，評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（0.5時間）
2 保育内容5領域の視点から観る① 「子どもの遊び」(1)		【学習内容】 実習日誌の記録をもとに，実習で観察した「遊び」の事例をピックアップし，5領域の視点で子どもの学びを分析する。 【事前学習】 保育実習と教育実習それぞれの実習日誌を整理し授業で活用できるように準備しておく。（0.5時間） 【事後学習】 今回事例として取り上げた保育場面以外の遊び場面に着目して，学びの分析を試みる。（0.5時間）
3 保育内容5領域の視点から観る② 「子どもの遊び」(2)		【学習内容】 前回記述した分析シートと他者の分析結果の発表とを比較し，「遊び」を5領域の視点で分析する考察のコツを学ぶ。 【事前学習】 自分の分析シートの記述内容を再度見直しておく。（0.5時間） 【事後学習】 分析シートに書き込んだメモをもとに，5領域の視点で保育と子どもの学びを観ることの理解を深める。（0.5時間）
4 保育内容5領域の視点から観る③ 「子どもの園生活」(1)		【学習内容】 実習日誌の記録をもとに，実習で観察した「園生活」の事例をピックアップし，5領域の視点で子どもの学びを分析する。 【事前学習】 保育実習と教育実習それぞれの実習日誌を整理し授業で活用できるように準備しておく。（0.5時間） 【事後学習】 今回事例として取り上げた保育場面以外の生活場面に着目して，学びの分析を試みる。（0.5時間）

5	保育内容5領域の視点から観る④ 「子どもの園生活」(2)	<p>【学習内容】 前回記述した分析シートと他者の分析結果の発表とを比較し、「園生活」を5領域の視点で分析する考察のコツを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 自分の分析シートの記述内容を再度見直しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 分析シートに書き込んだメモをもとに、5領域の視点で保育と子どもの学びを観ることの理解を深める。(0.5時間)</p>
6	育てて欲しい10の姿と保育内容①	<p>【学習内容】 「10の姿」の指定された項目について、専用読解シートを活用して、どのようなねらいが説明されているか学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章・第2節についてあらかじめ目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 読解シートの記述と併せて、再度指定された10の姿の項目について全文を読み返し、説明内容の理解に努める。(0.5時間)</p>
7	育てて欲しい10の姿と保育内容②	<p>【学習内容】 前回記述した読解シートをもとに、指定された項目の内容の詳細解説を聞き、10の姿のねらいと保育内容との関係性について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 前回授業で扱った10の姿の項目について、関連する保育内容領域の解説を読んでおく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 読解シートの記述と詳細解説のメモ内容と併せて、10の姿の項目について読み返し、説明内容の理解に努める。(0.5時間)</p>
8	育てて欲しい10の姿と保育内容③	<p>【学習内容】 「10の姿」の新たに指定された項目について、専用読解シートを活用して、どのようなねらいが説明されているか学ぶ。</p> <p>【事前学習】 前回授業で扱った項目以外の10の姿の説明についても、10の姿解説文の共通した文章構造を意識しながら読んでおく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 あらためて10の姿解説文の共通した文章構造を意識しながらすべての項目を熟読しつつ、保育内容5領域の内容とマッチさせながら理解を深めるよう努める。(0.5時間)</p>
9	ねらいを達成させる指導法の研究① －季節の園行事を題材した視覚教材作成の企画・相談－	<p>【学習内容】 保育現場で扱う「季節の園行事」を題材にした視覚教材作成のための企画・相談のグループワークに取り組む。</p> <p>【事前学習】 「保育・教育基礎研究Ⅱ」で取り組んだ「季節の園行事調べ」演習の記録や作成したポスターを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 企画・相談で決めた役割に従って、視覚教材作成のため資料収集をする。(0.5時間)</p>
10	ねらいを達成させる指導法の研究② －季節の園行事を題材した視覚教材の作成(1)－	<p>【学習内容】 前回授業で立てた企画に沿って、グループ協同で視覚教材の作成に取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の作成進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>

1 1	ねらいを達成させる指導法の研究③ －季節の園行事を題材した視覚教材の作成(2)－	<p>【学習内容】 引き続き授業で立てた企画に沿って、グループ協同で視覚教材の作成に取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の作成進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>
1 2	ねらいを達成させる指導法の研究④ －季節の園行事を題材した視覚教材の作成(3)－	<p>【学習内容】 引き続き授業で立てた企画に沿って、グループ協同で視覚教材の作成に取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の作成進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>
1 3	ねらいを達成させる指導法の研究⑤ －視覚教材を使った保育のシミュレーション・練習－	<p>【学習内容】 担当する「季節の園行事」について、保育現場を想定して作成した視覚教材を活用した保育のシミュレーションと練習に取り組む。</p> <p>【事前学習】 視覚教材を利用する際のグループ内の役割分担と自分の担当を確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 次回の「発表会」に向けて、自分の役割をあらためて確認し、自己練習をする。(0.5時間)</p>
1 4	ねらいを達成させる指導法の研究⑥ －「季節の園行事」の視覚教材を使った保育発表会－	<p>【学習内容】 作成した視覚教材を使って担当する「季節の園行事」に関わる保育をグループ協同で行い、他グループの発表も見学する。</p> <p>【事前学習】 自己練習と併せて、グループのメンバーと事前に入念な打ち合わせをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自グループの発表内容と他グループの発表内容を比較するなどして、視覚教材を利用することの効果や準備と練習の大切さを理解する。(0.5時間)</p>
1 5	子どもの育ちと学びの評価 ／授業のまとめ	<p>【学習内容】 保育内容5領域と「10の姿」を指標とした、子どもの「育ちの評価」について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節4の記述を中心に「評価」について概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』および配布プリント資料をもとに、子どもの学びの評価と保育内容5領域や10の姿がどのように関連しているのか理解を深める。(0.5時間)</p>
1 6	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（造形表現）		難波 章人		1	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1320		
		担当教員	難波 章人					

幼	科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】
1 造形活動	造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、保育所、幼稚園の中で取り扱う教材を学習する中で子どもの発達段階に応じた指導とその留意点について考察する。また、造形活動の具体的な保育指導案を作成、及び模擬保育の実践を通して保育を改善・向上しようとする力を身に付ける。
2 発達段階	
3 模擬保育	
4 指導案	
5 情報機器	

【到達目標】
1. 子どもの視点から造形的な表現を捉え、活動の準備、計画をすることができる。
2. 造形活動の指導案を作成し、模擬保育を通して保育を見つめ直す視点を身に付けている。
3. 造形活動における情報機器を活用する視点を身に付けている。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	試験	課題提出物	合計
評価割合 (%)	80%	20%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。		
【教科書】 『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』（編）竹井史 一藝社		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）		
【関連科目】 「子どもと表現」「絵画・造形」		
【受講心得】 意欲的に参加すること。		
【備考】 幼稚園教諭、保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 幼稚園教育要領における造形表現のねらい及び内容		<学習内容>新しい学習指導要領と造形表現のねらいと内容を解説する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>教育要領についてまとめておく。（0.5時間）
2 クレパスを用いた描画の題材と指導について		<学習内容>描画活動から発展する造形活動について解説する。 <事前学習>クレパスについて調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
3 水彩絵の具を使った表現の題材と指導について		<学習内容>水彩絵の具の特性を踏まえた題材の活用について解説する。 <事前学習>水彩絵の具について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
4 モダンテクニックを利用した題材と指導について		<学習内容>マーブリング、スパッターリング、マスキングの技法遊びの指導。 <事前学習>前期に製作したモダンテクニックについて調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）

5	共同的な造形活動の題材と指導について		<p><学習内容>保育における造形表現の環境と準備物とグループワークの題材と指導の留意点について解説する。</p> <p><事前学習>共同的な活動について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
6	造形遊びの素材・材料と指導について		<p><学習内容>水彩絵の具の特性を踏まえた題材の活用について解説する。</p> <p><事前学習>水彩絵の具について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
7	子どもの絵画表現の発達段階について		<p><学習内容>3歳未満児描画発達と3歳以上児の指導・評価も留意点について実践動画や画像をもとに解説する。</p> <p><事前学習>前期に製作した3歳未満児の題材と3歳以上児の題材について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
8	発達段階に応じた粘土遊びについて		<p><学習内容>粘土の特性を活かした題材の指導方法について解説する。また、粘土の種類について解説する。</p> <p><事前学習>粘土の種類について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
9	版画の題材と指導について		<p><学習内容>スチレン、紙を活用した版作りと指導の留意点について解説する。</p> <p><事前学習>版画の種類について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
10	保育実践例から見る情報機器の活用について		<p><学習内容>造形あそびにおける情報機器及び教材の活用について解説する。</p> <p><事前学習>情報機器について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
11	模擬保育と留意点について(実践動画をもとに)		<p><学習内容>模擬保育について実践動画をもとに造形表現設定保育について解説する。</p> <p><事前学習>模擬保育について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
12	保育指導案作成について		<p><学習内容>模擬保育題材決定と保育指導案作成について解説する。</p> <p><事前学習>造形活動の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を進める。(1時間)</p>
13	模擬保育(描画の題材から指導案実践)		<p><学習内容>「描く活動」「絵あそび」の指導案実践及び検討会を行う。</p> <p><事前学習>「描く活動」の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。(1時間)</p>

1 4	模擬保育（立体・工作の題材から指導案実践）		<p><学習内容>「工作活動」「製作遊び」の指導案実践及び検討会を行う。</p> <p><事前学習>「製作遊び」の題材について調べておく。（1時間）</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。（1時間）</p>
1 5	模擬保育（造形遊びの題材から指導案実践）		<p><学習内容>「造形あそび」の指導案実践及び検討会を行う。</p> <p><事前学習>「造形あそび」の題材について調べておく。（1時間）</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。（1時間）</p>
1 6	試験		<p>授業で扱った題材について試験で問う。また、子どもの描画の発達段階及び道具や技法について問う。</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと健康	谷川 裕子	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1213	
	担当教員	谷川 裕子				
幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	領域に関する専門的事項				
保	系 列	保育内容・方法に関する科目				必修
【キーワード】		【概要】				
1	領域	幼児期の運動は、体を動かす楽しさや心地よさを体感することが大切です。そのためには自ら体を動かす環境が必要となります。しかし近年の子どもを取り巻く生活環境が体を動かす機会を減少させている。本授業では子どもが運動できる環境への課題解決に向けて、様々な要素（人・もの・社会）がどのように関わるべきかを学びます。また子どもの身体の発育発達を理解した身体運動、さらに安全について教材を通して学びます。				
2	健康					
3	発育発達					
4	運動遊び					
5	多様な動き					
【到達目標】		1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 2. 子どもの生活と遊びを豊かに展開するための知識や技術を習得できる。 3. 子どもの身体活動における諸問題に関心を持つことができる。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	実践力	課題提出	取り組む姿勢	合計		
評価割合 (%)	50%	30%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	理論に基づいた実践ができる。課題に真摯に向き合い課題解決ができています。					
A	理論に基づいた実践ができる。課題に真摯に向き合い向上しようとする姿勢がある。					
B	授業内容を理解しており、最低限の知識と技能を持つ。					
C	授業内容を理解しており、最低限の技能を持つ					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題において、返却をもって授業時に行う。		
【教科書】 『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社		
【参考書・参考資料等】 『新訂 豊かな感性を育む表現遊び』井上勝子他 ぎょうせい 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）		
【関連科目】 「保育内容（健康）」		
【受講心得】 体を使っての授業のため、実習着での参加とする。また装飾品はつけてこない。体験を重視とするため遅刻、欠席をしない。模擬保育が中心となるため身体活動を行う保育士としての身なりや立ち居振る舞いを心がける。		
【備考】 幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修		
【学習項目】		
	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教育における領域「健康」	本授業の到達目標の確認と、全体の授業内容を伝達する。保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。事前学習：指定された教科書を用意する（30分）事後学習：課題を行う（30分）
2	保育所保育指針における領域「健康」	保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。事前学習：保育所保育指針を読んでおく（30分）事後学習：課題を行う（30分）
3	基本的な動き（歩く・走る・跳ぶ・まわる）	人としての動きを再確認する、また発育発達を促す動きについて知る。事前学習：テキストP10～P13を読んでおく（1時間）事後学習：課題実技の練習（30分）
4	基本的な動き（複合的な動き）	身体活動としての動きを学ぶ。事前学習：テキストP1～P6を読んでおく（1時間）事後学習：課題実技の練習（30分）
5	基本的な動き（人と関り動く）	複数人で遊ぶ遊びを体験。事前学習：テキストP18～P22を読んでおく（1時間）事後学習：課題実技の練習（1時間）
6	ルールのある遊び	発達段階に合わせたルール遊びを学ぶ。事前学習：テキストP39～P45を読んでおく（30分）事後学習：課題実技の練習（30分）

7	物を使つての遊び（小型遊具）		様々な素材・道具を通して身体活動へ展開する方法を学ぶ。事前学習：テキストP57～P81を見ておく（30分）事後学習：課題実技を練習（30分）
8	物を使つての遊び（大型遊具）		大型遊具の使い方と安全方法を学ぶ。事前学習：テキストP82～107を見ておく（30分）事後学習：課題実技の練習（30分）
9	物を使つての遊び（見立て遊び）		物を見立てて遊ぶ展開方法を学ぶ。事前学習：見立てて遊べそうな素材を探す（1時間）事後学習：課題実技の練習（30分）
10	ごっこ遊び		身体表現遊びを学ぶ。事後学習：課題実技の練習（30分）
11	生活事象から動きを見つける		イメージしたものを身体活動に変える展開を学ぶ。事前学習：保育におけるイベントを調べておく（30分）事後学習：課題実技の練習（30分）
12	リズムダンス（基本的な動き）		模倣動作を体操やリズムダンスを通して学ぶ。事後学習：課題実技の練習（30分）
13	リズムダンス（創作）		ダンスや体操を創作する。事前学習：ダンスや体操の情報を集めておく（1時間）事後学習：課題実技の練習（30分）
14	リズムダンス（発表）		みんなの前で創作体操やダンスを発表する。事前学習：創作したものを練習する（1時間）事後学習：創作の課題を記述する（30分）
15	まとめ		到達目標の確認、学びの総復習。事後学習：学習内容の振り返り（30分）

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育Ⅱ		砥上 あゆみ		1	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1303		
		担当教員	砥上 あゆみ					
幼 保	科 目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目						必修
【キーワード】		【概要】						
1	受容	・乳児保育Ⅰでの学びを基礎とし、乳児保育の基本、保育者としての援助・配慮事項等を具体的に考えていく。また、子どもの育ちのを保障する保育内容や方法および環境構成について理解を深め、計画、実践ができることを目的とする。						
2	応答							
3	保育環境	・乳児保育における指導計画について、実践でいかせるような記録を学習する。						
4	養護							
5	保育内容							
【到達目標】		1. 乳児保育の基本、保育者としての援助・配慮事項等を具体的に考えることができる。 2. 3歳未満児の発育、発達をふまえた保育内容や方法および環境構成について説明できる。 3. 乳児保育における指導計画を立案することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	試験	課題提出	受講態度	合計				
評価割合 (%)	40%	20%	40%	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 提出された課題等については、返却を行い、要点を確認する。		
【教科書】 『乳児の発達と保育 遊びと環境』エイデル研究所 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館 無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館 『資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房		
【関連科目】 「子どもの心理学」「子どもの保健」		
【受講心得】 専門職を目指している心かまえをもち、積極的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めること。		
【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 乳児保育の基本（1） 子どもと保育士の関係		授業概要や到達目標の説明、乳児保育Ⅰの基本的事項の確認も行う。乳児保育の基本となる、子どもと保育士等の関係性の重要性についてふれる。 事前学習（0.5時間） シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 乳児保育（2） 子どもの主体性の尊重		子どもの自己の発達過程を基に、子どもの主体性を育む保育について考えていく。 事前学習（0.5時間） 事前に内容に関する箇所を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 0歳児クラスの保育の実際① 生活の流れ		子どもの発育・発達をふまえた保育の流れについて、主に基本的生活を中心にみていく。 事前学習（0.5時間） 保育園での1日の流れを教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 0歳児クラスの保育の実際② 保育の環境		0歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 0歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 0歳児クラスの保育の実際③ 援助の実際		0歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習（0.5時間） 教科書を熟読しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 1歳児クラスの保育の実際① 生活の流れ		子どもの発育・発達をふまえた保育の流れについて、主に基本的生活を中心にみていく。 事前学習（0.5時間） 保育園での1日の流れを教科書で確認しておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	1歳児クラスの保育の実際② 保育の環境	<p>1歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習 (0.5時間) 1歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
8	1歳児クラスの保育の実際③ 援助の実際	<p>1歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書を熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
9	2歳児クラスの保育の実際① 生活の流れ	<p>子どもの発育・発達をふまえた保育の流れについて、主に基本的生活を中心にみていく。 事前学習 (0.5時間) 保育園での1日の流れを教科書で確認しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
10	2歳児クラスの保育の実際② 保育の環境	<p>2歳児クラスの保育の環境の配慮、留意点等を学ぶ。 事前学習 (0.5時間) 2歳児の保育の環境を教科書で確認しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
11	2歳児クラスの保育の実際③ 援助の実際	<p>2歳児クラスの保育士の援助について、具体的に考えていく。 事前学習 (0.5時間) 保育園の1日の流れを教科書で確認しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、大切な事柄を整理しておくこと。</p>
12	乳児保育における配慮の実際①	<p>乳児保育における子どもの成長を保障する配慮の実際について、これまでの学びを基に、事例をとおして考えていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書を熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
13	乳児保育における配慮の実際②	<p>乳児保育における子どもの成長を保障する配慮の実際について、これまでの学びを基に、事例をとおして考えていく。 事前学習 (0.5時間) 教科書を熟読しておくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
14	乳児保育における指導計画①	<p>乳児保育の指導計画の立案をする。 事前学習 (0.5時間) 乳児保育 I で学んだ基本的事項を復習し、教科書を読んでおくこと。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>
15	乳児保育における指導計画②	<p>立案した指導案の展開の工夫、評価のポイント等について学ぶ。 事前学習 (1時間) 指導案を完成させる。 事後学習 (1時間) 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの健康と安全		楠野 雅子	1	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE1304	
		担当教員	楠野 雅子				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目					必修
【キーワード】		【概要】					
1	健康と保健環境	保健的観察点を踏まえた保育環境及び援助 保育における健康及び安全管理（衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理災害へ備え） 子供の体調不良に対する適切な対応 保育における感染症対策（感染症について・集団発生予防・感染症発症時と罹患後の対応） 保育に必要な保健的対応の基本的考えかた					
2	健康と安全管理						
3	一次救命処置						
4	感染症予防						
5	保健的対応						
【到達目標】		1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する 2. 保育における衛生管理・事故防止・及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解 3. 子どもの体調不良に対する適切な対応と保育における感染症対策について、具体的に理解する					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	定期試験	受講態度	実技・提出物	合計			
評価割合 (%)	70	20	10	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
課題レポートに対して、コメントを返却するので、確認し返答すること。		
【教科書】		
『実践保育学』 帆足英一監修 日本小児医事出版社		
【参考書・参考資料等】		
『保育所における感染症対策ガイドライン』『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』 (内閣府・文部科学省・厚生労働省)等 『実践保育学』帆足英一監修 日本小児医事出版 『子どもの保健・演習』同文書院 『子どもの保健Ⅰ・Ⅱ』ななみ書房		
【関連科目】		
「子どもの保健」		
【受講心得】		
子どもの健康と安全について、保育現場で子どものいのちが守れるよう知識・技術の習得に努めること		
【備考】		
保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 はじめに 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 保健に関する個別対応と集団全体の健康及 び安全管理		<学習内容>①子どもの健康と保育環境②保健的観点を踏 まえた子どもの援助の仕方 ③健康診査④体調変化の際の個別対応 ⑤集団全体の健康及び安全管理 <事前学習>テキストを事前に目を通しておく（1時間） <事後学習>子どものバイタルサイン、健康状態の評価な ど講義内容（1時間）
2 保育における健康及び安全の管理 （衛生管理）		<学習内容>①施設環②屋内の衛生管理③屋外の衛生管理 <事前学習>テキスト該当ページに目を通しておく （1時間） <事後学習>手洗い・主な遊具の消毒・調乳室の衛生 管理・嘔吐物の処理（1時間）
3 事故防止及び安全管理		<学習内容>①子どもの事故の特徴 ②事故防止のための具体的な方法 ④事故後の精神的支援⑤安全対策 <事前学習>テキスト該当ページに目を通しておく （1時間） <事後学習>事故防止のための安全対策・事故災害の予防 と対策（1時間）
4 危機管理、災害への備え		<学習内容>①保育における危機管理②保育における災害 への備え③安全教育 <事前学習>テキストに目を通しておく（1時間） <事後学習>保育における危機管理・災害への備え・安全 教育（1時間）
5 子どもの体調不良に対する適切な対応		<学習内容>①体調不良時の対応 ②傷害時の応急処置③事故にあった時の対応 ④薬の投与の仕方⑤病院受診時の対応 <事前学習>テキストに目を通しておく（1時間） <事後学習>発熱時・けいれん・嘔吐時の対応。子どもの 観察項目。与薬の仕方。病院受診時の対応。（1時間）
6 応急処置 救急処置及び救急蘇生法		<学習内容>応急処置（誤嚥・アナフィラキシー）。 一次救命処置（心肺蘇生法・AED・気道異物の除去） <事前学習>テキストに目を通しておく（1時間） <事後学習>応急処置（誤嚥・アナフィラキシー）。 一次救命処置（心肺蘇生法・AED・気道異物の除去） （1時間）

7	感染症対策（集団発生の予防）	<p><学習内容></p> <p>①子どもの主な感染症の症状と対応</p> <p>②感染症予防のための対策。予防接種。</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>感染症について。子どもの主な感染症。流行予防の対策。予防接種について（1時間）</p>
8	感染症対策（感染症発症時と罹患後の対応）	<p><学習内容></p> <p>①出席停止期間の基準</p> <p>②感染症罹患後の対応</p> <p>③保護者及び多職種・自治体との連携</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>学校保健安全法（出席停止期間の基準）の感染症について。講義内容の復習。（1時間）</p>
9	保育における保健的対応（基本的考え方）	<p><学習内容></p> <p>①保健活動における保健的な視点</p> <p>②食事・排泄・睡眠時における保健的対応</p> <p>③外出時・保育行事における保健的対応</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>保育活動における保健的対応（1時間）</p>
10	保育における保健的対応 （3歳未満児への対応）	<p><学習内容></p> <p>①抱き方、おんぶ</p> <p>②食事の与え方</p> <p>③衣服の着脱・保清・沐浴・入浴のさせ方</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>衣服の着脱・保清・沐浴・入浴のさせ方（1時間）</p>
11	個別的な配慮を要する子どもへの対応	<p><学習内容></p> <p>①慢性疾患や障害をもつ子どもの養護</p> <p>②アレルギー疾患をもつ子どもの養護</p> <p>③先天性心疾患をもつ子どもの養護</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>アレルギー疾患を持つ子どもの養護（食物アレルギー・アナフィラキシー・アトピー性・気管支喘息）（1時間）</p>
12	障害のある子どもへの対応	<p><学習内容></p> <p>①障害をもつ子どもの保育や援助で留意すること</p> <p>②医療的ケア児への対応</p> <p>③様々な障害のある子どもへの対応を理解</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>学習内容（1時間）</p>
13	健康・安全の管理の実施体制 （職員間の連携・協働）	<p><学習内容></p> <p>①職員間の連携・協働と組織的取り組み</p> <p>②保育における保育活動の計画及び評価</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>保健計画作成・保健だより（1時間）</p>
14	地域保健における自治体、家庭、地域の関連機関との連携	<p><学習内容></p> <p>①母子保健・地域保健における自治体との連携</p> <p>②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておく（1時間）</p> <p><事後学習>保健活動における関係機関との連携（1時間）</p>
15	まとめ	

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習 I		飯塚 恭一郎		1	後期	実習	選択	4
		担当形態			ナンバリング		CE1213	
		担当教員	保育所担当：飯塚恭一郎 豊辻晴香 砥上あゆみ 梶中智恵 施設担当：菅原亜紀 古野愛子					
幼	科目	教育実践に関する科目						
		施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育実習						必修
【キーワード】		【概要】						
1	保育実習	<ul style="list-style-type: none"> 保育所および施設における子どもや入所者の日々の生活と遊びの様子の観察し、成長発達の道筋や特性の理解に繋がるかかわりを重ねる。 保育参加とメンター保育士のサポートを通して、保育士の基本的な仕事の内容を体験的に学び、人的環境として子どもと入所者にかかわり配慮していく、その役割の重要性を理解する。 保育士としての資質や保育スキル、専門性の獲得の必要性を自覚し、以降の学習と実習に向けて自己の学びの課題を得ることを目指す。 現場で実習するにあたり、保育士あるいは社会人として求められる礼儀や挨拶、身なり、立ち振る舞い、言葉遣いがあることを学ぶ。 保育士倫理を遵守し、人権を尊重する保育と福祉を実践する。 						
2	保育所							
3	施設							
4	観察実習							
5	子ども理解							
【到達目標】		1. 保育所や施設における基本的な生活と遊びの概要を理解し、発達や心情理解をもとに入所者と関わることができる。 2. 実習体験と日誌記述による日々の振り返りから、保育士に求められる専門性獲得の必要性を自覚するとともに、実習以降の自己の学習課題を明確にすることができる。 3. 保育士の仕事内容を把握し、人的環境として入所者への保育的働きかけと配慮ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性						
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○						
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○						
【成績評価の方法】								
成績指標	実習園の評価		実習に対する取り組み			合計		
評価割合 (%)	80%		20%			100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。	
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省（フレーベル館）	
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）	
【関連科目】 保育実習指導 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	
【受講心得】 <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理を守り、入所者の人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である保育所あるいは施設の保育方針を理解し、その施設の「一保育士」として入所者の前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター保育士の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。 	
【備考】 保育士資格必修	
【学習項目】	
<p>※原則10日間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習園の概要と1日の生活の流れを把握する。 ②生活における入所者の基本的な生活習慣を知る。 ③保育所においては、子どもの遊びや保育内容の実際を保育参加を通して体験する。 ④施設実習においては、入所者の発達特性や障害特性、生育歴等の理解に努める。 ⑤施設実習においては、入所者に対する生活介護の必要性を理解し、介護に必要なスキルの獲得に努める。 ⑥生活の中で入所者とかかわりコミュニケーションを図る。 ⑦個々の入所者の心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ⑧保育室をはじめ、実習園施設の清掃や環境整備に取り組み、その保育的意図を理解する。 ⑨実習日誌の記述を通して記録の取り方や保育を観る視点を学ぶ。 ⑩記録された事実から気付きや考察をまとめ、文章化する。 ⑪保育所実習においては、絵本の読み聞かせや手遊びなど、子ども集団を対象にした部分的な保育に取り組む。 ⑫実習における保育実践について振り返り、反省会等でメンター保育士からの指導、助言、評価を受ける。 <p>【事前学習】（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） ・前日の実習内容の振り返りをもとに、本日の実習課題を明確にする。 <p>【事後学習】（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は、毎日の実習記録として日誌を記述し、本日の実習内容と学びの振り返りを行う。 	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
幼児体育指導法		山本 龍介	1	後期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング	CE1305	
		担当教員	山本 龍介				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目					選択必修
【キーワード】		【概要】					
1	運動あそび	乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努める。また、「幼児体育」の意義やねらい、内容・方法についての理解と修得をはかり、保育者として実践力を高める。保育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を修得し、子どもの発達をふまえた運動遊びの援助・指導・安全管理を身につける。最終的には運動遊びに関する指導案を作成して、それを基に実践し、意見交換や相互評価を行う。指導、援助に必要な言葉かけやポイントについて、実践を通して考察・検討する。					
2	発達・発育						
3	動きの多様化						
4	動きの洗練化						
5	共感力 (コミュニケーション)						
【到達目標】		1. 幼児期における身体運動に関する基本知識を理解できる。 2. 乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、「幼児体育」の意義やねらい、内容・方法についての理解と修得をはかり、保育者として実践力を高めることができる。 3. 幼児期運動指針の把握し実践できる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
【成績評価の方法】							
成績指標	指導案の作成、実践	実技参加の積極性及び協調性	受講態度	合計			
評価割合 (%)	40	30	30	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

<p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>※各保育実践終了後、作成した指導案に自己評価・反省を記入し提出。内容を評価し、コメントを付け返却。</p>
<p>【教科書】</p> <p>資料等は必要に応じて配布します。</p>
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>必要に応じてプリントを使用します。</p>
<p>【関連科目】</p> <p>「子どもと体育」 「子どもと身体表現」 「身体表現指導法」</p>
<p>【受講心得】</p> <p>目的意識・課題意識をもって、集中した学習態度で臨むこと。意欲的、積極的な取り組みを評価します。体育着（運動のできる服装）を用意してください。子どもにたくさん接するため、ピアス、ネックレス、ブレスレット、指輪などアクセサリーは外し、髪の毛の長い人は、髪の毛を結ぶようにしてください。</p>
<p>【備考】</p>

【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション、幼児体育について		<p>〈事前学習〉 全15回の講義内容に目を通す（15分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（授業の進め方、評価方法などの説明） ・リズム体操 1曲 ・簡単な運動あそびの実践 ・資料配布 運動の発達特性（3歳～6歳児） <p>〈事後学習〉 運動あそびの実践で行なったあそびについて指導のポイントや遊びのアレンジをノートにまとめる（30分）</p>
2 保育実践①（子どもの発達理解）		<p>〈事前学習〉 配布した資料や手持ちの参考書などを用いて、3・4・5歳児の発達発達について理解を深めておく（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真の園児と運動あそびの実践 ・子どもの発達、発育の理解を深める ・資料配布 幼児期における身体活動・運動の意義 <p>〈事後学習〉 実際に指導した子どもの様子や自己評価改善点をノートにまとめる（30分）</p>
3 現代社会における運動の意義と重要性		<p>〈事前学習〉 前回配布した資料の下読み。質問事項等をまとめる（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動あそびの意義 ※前回配布した資料を持参 ・リズム体操 1曲 ・共感あそびの実践 <p>〈事後学習〉 配布した資料に再度目を通す。実施した共感あそびの指導のポイントやアレンジをノートにまとめる。（60分）</p>
4 オリジナルリズム体操の作成		<p>〈事前学習〉 オリジナルリズム体操の選曲案（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム体操 2曲 ・リレーあそびの実践 ・オリジナルリズム体操の作成（各グループ） <p>〈事後学習〉 実施したリレーあそびの指導ポイントやアレンジをノートにまとめる オリジナルリズム体操の復習（60分）</p>
5 リズム体操の発表 保育実践②に向けて模擬保育	資料で確認	<p>〈事前学習〉 オリジナルリズム体操の復習 保育実践②に向けて年長児の発達・発育を手持ちの資料で確認（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで作成したリズム体操の発表 ・保育実践②へ向けて簡易指導案の作成・模擬実施（各グループ） <p>〈事後学習〉 模擬実施による自己評価、改善を簡易指導案に記入（30分）</p>
6 保育実践②		<p>〈事前学習〉 保育実践②にむけて簡易指導案の再確認（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真より年長児12名来校 ・1グループ15分の保育実践 ・保育実践②終了後、自己評価。課題の見出し ・資料配布 脳と体を健全に育てる <p>〈事後学習〉 保育実践②について自己評価や課題をまとめる（30分）</p>

7	運動あそびの指導案作成	<p>〈事前学習〉 前回配布した資料に目を通し、質問事項等をまとめる（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践②を指導案に起こす ・指導案作成のポイント説明 ・作成した指導案の提出 ・運動あそびの実践（アレンジ） <p>〈事後学習〉 様々な運動あそびのアレンジを考えノートにまとめる（30分）</p>
8	幼児期運動指針の理解 手具を使ったあそびの指導法	<p>〈事前学習〉 ボール・縄・フープを使ったあそびの考案（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期運動指針の理解とポイントを把握 ・ボール、縄、フープを使った遊びの実践 ・資料配布 幼児の指導法・指導技術 <p>〈事後学習〉 配布した資料に目を通し、保育実施③に活かせるようにする（30分）</p>
9	保育実践③に向けて指導案の作成	<p>〈事前学習〉 年中児の発達・発育を理解し、手具をつかったあそびの考案する</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児を対象とした手具を使ったあそびの指導案を作成 ・各グループ模擬保育を実施。評価、改善 <p>〈事後学習〉 模擬保育を通して、作成した指導案の修正（30分）</p>
10	保育実践③（手具を使ったあそび）	<p>〈事前学習〉 作成した指導案の再確認（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真 年中児来校 ・各グループ15分 実践 ・終了後、自己評価、他評価、改善点の見出し ・資料配布 魅力的な指導者になるために <p>〈事後学習〉 保育実践③を通して、自己評価と改善策を指導案に記入（30分）</p>
11	器械運動の指導法・補助法	<p>〈事前学習〉 事前に配布した資料に目を通し、質問事項等をまとめる（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット、鉄棒、跳び箱、平均台の指導法と補助法 ・体育遊具をつかったサーキットあそびの実践 <p>〈事後学習〉 子どもに対しての補助法をノートにまとめる（60分）</p>
12	保育実践④に向けて指導案の作成（器械運動）	<p>〈事前学習〉 年少児の発達・発育について理解を深め、 体育遊具を用いたサーキット遊びの考案（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少児の運動あそび（サーキットあそび）の指導案作成 ・各グループ模擬保育を実施、評価、改善 <p>〈事後学習〉 模擬保育をふまえ、指導案の修正や確認（30分）</p>
13	保育実践④（サーキットあそび）	<p>〈事前学習〉 作成した指導案の確認と指導方法の再考（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真 年少児来校 ・各グループ15分 実践 ・終了後、自己評価、他評価、改善点の見出し <p>〈事後学習〉 保育実践③を通して、自己評価と改善点を指導案に記入（30分）</p>
14	安全管理上の配慮事項とケガへの対応	<p>〈事前学習〉 手持ちの資料等を活用し、様々なケガへの対応方法を調べる（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動あそび中の事故によるケガへの対応法 ・幼児期の発達特性に応じた配慮事項 <p>〈事後学習〉 慌てずケガの対応ができるように、配布した資料を再確認する（30分）</p>
15	まとめ	<p>〈事前学習〉 過去14回の講義をふまえて、質問事項等をまとめておく（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の返却と評価 ・総まとめ <p>〈事後学習〉 授業内で使用した資料や自身が作成したノートなどを 保育実習や現場に出て使用できるように、まとめる（60分）</p>

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅱ		飯塚 恭一郎	1	後期	演習	選択	1
		担当形態	複数		ナンバリング	CE1221	
		担当教員	飯塚恭一郎・青沼典子・古野愛子・畠中智恵				
幼	科目	領域および保育内容の指導法に関する科目					選択
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法					選択
保	系列	保育のないよう・方法に関する科目					選択
【キーワード】		【概要】					
1	実践	保育教育基礎研究Ⅰを基礎とし、個々の保育技術、技能を高めるため実践的な取り組みを行う。また、演習を通して保育者の専門性、資質について考えを深め、高めていく。					
2	サービスラーニング						
3	企画						
4	指導案						
5	行事						
【到達目標】		1. 保育・教育基礎研究Ⅰで習得した保育技術・技能を実践的な場で活用し、展開することが出来る。 2. 保育者に求められる専門性について考えを深めることが出来る。 3. 保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱおよび関連科目を参考にし、年齢に応じた子どもの遊び・活動を立案することが出来る。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性					
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○					
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○					
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○					
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○					
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	受講態度・意欲		課題提出・出席			合計	
評価割合 (%)	50%		50%			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	演習の目的を理解した上で、課題に真摯に取り組む姿があり、課題、提出物の内容が十分である。						
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿が有り、課題、提出物の内容がおおむね十分である。						
B	演習課題に意欲的に取り組む姿が有り、課題、提出物の内容が本人の力量相応である。						
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題、提出物が最低限の内容に留まっている。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
【教科書】 各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。		
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
【関連科目】 幼稚園・保育所 関連科目全般		
【受講心得】 遅刻、欠席はしない。共同での取り組みの時は人に迷惑をかけない。積極的に取り組む。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保育教育指導法Ⅱの目的と内容と目的 保育技術試験①	飯塚 青沼 古野 島中	【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して、本授業の概要と目標について理解を深める（0.5時間）
2 保育技術試験②	飯塚 青沼	【学習内容】 夏休みの課題作品を持ち寄り、また、他の人の作品を見ることで新たな方法や、表現を知る。グループに分かれ、実演をし、教員の評価や助言を受ける。他の人の実演を見る。 【事前学習】 夏休みの課題作品の実演練習をしておく。（0.5時間） 【事後学習】 実際にやってみたことについての反省や助言をもとに自分の改良点を探る。（0.5時間）
3 保育技術試験③	飯塚 青沼	【学習内容】 夏休みの課題作品を持ち寄り、また、他の人の作品を見ることで、新たな方法や表現を知る。グループに分かれ実演をし、教員の評価や助言を受ける。また他の実演を見る。 【事前学習】 実演の練習をしておく。（0.5時間） 【事後学習】 ほかの作品を写真にとって今後の参考にする、まとめ（0.5時間）
4 秋フェスタに向けての準備	青沼	【学習内容】 秋フェスタ準備、作り物、買い物等を、決まったグループで手分けをして行う。 【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間） 【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）
5 秋フェスタの実施 （サービスラーニング）	飯塚 青沼	【学習内容】 秋フェスタの飾り付け、準備、実際に、決まったグループで協力して行う。それによってグループ活動の大事さを学ぶ。 【事前学習】 秋フェスタについてイメージを膨らませ、来校者への対応をシミュレーションをする。（0.5時間） 【事後学習】 フェスタについての自己振り返りをしておく。（0.5時間）

6	秋フェスタ振り返り	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 グループごとに反省、振り返り、全体での振り返りや、参加者からの意見を聞き、サービスマーケティングについて学習を深める。</p> <p>【事前学習】 自分の振り返りかえり、グループ、全体的な反省等発表出来るようにしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 全体での振り返りを今後につなぐまとめをレポートする。(0.5時間)</p>
7	こどもの遊びと指導計画 (0・1歳児)	古野 島中	<p>【学習内容】 年齢ごとの指導計画の立て方を知る。書き方、ねらい、気づき、環境等、事例を参考に考えてみる。</p> <p>【事前学習】 保育指針や0・1歳児の指導計画に関するテキスト等を読んでおく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 指導計画を振り返り、授業での説明や助言をもとに書いてみる。(0.5時間)</p>
8	こどもの遊びと指導計画 (2歳児)	古野 島中	<p>【学習内容】 2歳児の姿について知り、指導計画をどのように立て、進めていくかを知る。そして書いてみる。</p> <p>【事前学習】 保育指針、その他のテキスト等で2歳児の姿を知っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 2歳児の姿について振り返り、指導計画を再考察する。(0.5時間)</p>
9	こどもの遊びと指導計画 (3歳児)	青沼	<p>【学習内容】 3歳児の姿について知り、指導計画をどのように考え立案していくかを知る。そして一部分を書いてみる。</p> <p>【事前学習】 保育指針、その他のテキストで3歳児の姿を把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 3歳児の姿について授業内容を振り返り、書いていた指導計画を再考察する。(0.5時間)</p>
10	こどものあそびと指導計画 (4・5歳児)	飯塚	<p>【学習内容】 4・5歳児の姿について知り、指導計画をどのように考え、立案していくかを知る。そして書いてみる。</p> <p>【事前学習】 保育指針、幼稚園教育要領を読み、4・5歳児の姿について知っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内容を振り返り、書いてみた指導計画について再考察する。(0.5時間)</p>
11	季節の行事をもとにした 保育内容の実践研究① ー保育であつかう季節の行事ー	青沼	<p>【学習内容】 保育園、幼稚園で経験した行事について振り返る。行事を出し合い、全体で残していきたい子どもの行事について考える。そして書き出してみる。</p> <p>【事前学習】 小さい頃に経験した行事について思い出し、内容を書いておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業の振り返りを行い、残していきたい行事を選んでおく。(0.5時間)</p>

1 2	季節の行事をもとにした 保育内容の実践研究② －行事を調べるグループワーク－	飯塚	<p>【学習内容】 残していきたい行事について共有する。グループに分かれ、ひとつの行事について詳しく調べる。ポスター発表を見据え、レイアウトなども考えていく。</p> <p>【事前学習】 行事についてい文の意見が言えるように準備する。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループで決まった行事について詳しく調べる。(0.5時間)</p>
1 3	季節の行事をもとにした 保育内容の実践研究③ －グループワーク研究発表準備－	青沼	<p>【学習内容】 ポスター発表が出来るように調べたことをまとめていく。発表の進め方をグループで分担し合う。</p> <p>【事前学習】 調べたことをまとめておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 発表に向け、シミュレーションを行う。(0.5時間)</p>
1 4	季節の行事をもとにした 保育内容の実践研究④ －行事のグループワーク発表会－	飯塚	<p>【学習内容】 ポスター発表をする。いろいろな行事について深く知る。自身が内容についてしっかり知り、子どもに伝えていける機会をイメージする。</p> <p>【事前学習】 グループの発表について再確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業の振り返りを行い、行事についての内容や認識をまとめておく。(0.5時間)</p>
1 5	保育・教育基礎研究振り返り	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 基礎研究で学んだことを振り返り、現場に繋げていけるようにする。実習を控え、視聴覚教材を補助的に使ってイメージを持って現場に行けるようにする。</p> <p>【事前学習】 シラバスを見て基礎研究でやってきた学習内容を振り返る。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 基礎研究の学びを次年度へ、現場へ行かせるようにまとめをする。(0.5時間)</p>

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
音楽表現Ⅲ		豊辻 晴香	1	後期	演習	選択	1	
		担当形態	複数教員		ナンバリング	CE1306		
		担当教員	下村恭子・多田裕子・豊辻晴香 福田陽子・水崎玄・淀川典子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列	保育の内容・方法に関する科目						選択必修
【キーワード】		【概要】						
1	ピアノ演奏	ピアノレッスンを通して各自のレベルに適した楽曲に取り組み、これまでに培った演奏技術をさらに向上させ、その成果を発表するとともに、集団歌唱の伴奏も経験する。また、連弾を通して音楽のハーモニーの美しさを体感するとともに、任されたパートを全うしメンバーと協力して一つの楽曲を作り上げる楽しさを味わう。						
2	連弾							
3	弾き歌い							
4	歌唱伴奏							
5	音楽的表現							
【到達目標】		1. 既習した独奏や弾き歌いの技術をさらに深め、表現などを付けて、より音楽的に演奏できる。 2. 保育・教育の現場で求められる音楽の専門的知識と表現技術を習得することができる。 3. 連弾をとおして、互いの音を聴きあい、協力して音楽を作り上げて楽しむことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性	
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○	
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○	
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	取り組み姿勢・授業態度		発表会		合計			
評価割合 (%)	70		30		100			
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を活かし優れた演奏である。							
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を活かした演奏である。							
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれていない演奏である。							
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる演奏である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。		
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社		
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「音楽表現指導法」「子どもと表現」		
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
【備考】 保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 夏休み課題曲発表会 および オリエンテーション	各教員	<学習内容>夏休み期間の課題曲を演奏する。また、本授業の目的や進行等について理解する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
2 ピアノ演奏・弾き歌いの応用①	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3 ピアノ演奏・弾き歌いの応用②	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4 ピアノ演奏・弾き歌いの応用③	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
5 ピアノ演奏・弾き歌いの応用④	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6 弾き歌い発表会	各教員	<学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
7 歌唱伴奏の取り組み①	各教員	<学習内容>集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

8	歌唱伴奏の取り組み②	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
9	歌唱伴奏の取り組み③	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
10	歌唱伴奏の取り組み④ —伴奏発表会—	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱の場面でピアノ伴奏を披露する。</p> <p><事前学習> 発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習> 発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
11	連弾発表会の準備および 実習課題曲の取り組み①	各教員	<p><学習内容> 連弾曲の全体像をつかみ、連弾で割り当てられた担当の譜読みをする。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
12	連弾発表会の準備および 実習課題曲の取り組み②	各教員	<p><学習内容> 連弾のパート練習をする。また実習課題曲に取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
13	連弾発表会の準備および 実習課題曲の取り組み③	各教員	<p><学習内容> 連弾のパート練習をする。また実習課題曲に取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
14	連弾発表会の準備および 実習課題曲の取り組み④	各教員	<p><学習内容> 連弾の全体練習をする。また実習課題曲に取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
15	連弾発表会の準備および 実習課題曲の取り組み⑤	各教員	<p><学習内容> より音楽的な演奏となるよう、連弾の全体練習をする。また実習課題曲に取り組む。</p> <p><事前学習> 発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習> 発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
16	連弾発表会		

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習 I		難波 章人	1	後期	実習	選択	2
		担当形態	ナンバリング		CE1225		
		担当教員	青沼典子 谷川裕子 難波章人				
幼	科目	教育実践に関する科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実習					
保	系列						
【キーワード】		【概要】					
1	教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における子どもの生活と遊びの様子の観察し、子どもの発達理解や心情理解に繋がるかかわりを重ねる。 ・保育参加とメンター教諭のサポートを通して、幼稚園教諭の基本的な仕事の内容を体験的に学び、人的環境として子どもにかかわり配慮していくその役割の重要性を理解する。 ・幼稚園教諭としての資質や教育的スキル、専門性の獲得の必要性を自覚し、以降の学習と実習に向けて自己の学びの課題を得ることを目指す。 ・現場で実習するにあたり、教師あるいは社会人として求められる礼儀や挨拶、身なり、立ち振る舞い、言葉遣いがあることを学ぶ。 					
2	幼稚園						
3	幼稚園教諭						
4	観察実習						
5	子ども理解						
【到達目標】		<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な幼稚園生活と遊びの概要を理解し、子どもの発達や心情をもとに子どもと関わるができる。 2. 実習体験と日誌記述による日々の振り返りから、教師に求められる専門性獲得の必要性を自覚するとともに、実習以降の自己の学習課題を明確にすることができる。 3. 幼稚園教諭の仕事内容を把握し、人的環境として子どもへの教育的働きかけと配慮ができる。 					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	実習園の評価		実習に対する取り組み			合計	
評価割合 (%)	80%		20%			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	

評語	評価の基準
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。	
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレール館）	
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）	
【関連科目】 教育実習指導 教育実習Ⅱ	
【受講心得】 <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。 	
【備考】 幼稚園教諭免許必修	
【学習項目】 ※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②園生活における子どもの基本的な生活習慣を知る。 ③子どもの遊びや保育内容の実際を保育参加を通して体験する。 ④遊びや園生活の中で子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ⑤個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ⑥保育室の清掃や環境整備に取り組み、その教育的意図を理解する。 ⑦実習日誌の記述を通して記録の取り方や保育を観る視点を学ぶ。 ⑧記録された事実から気づきや考察をまとめ、文章化する。 ⑨絵本の読み聞かせや手遊びなど、子ども集団を対象にした部分的な保育に取り組む。 ⑩実習における保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間 【事後学習】 実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップする。1時間	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション理論		春田 智明	1	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独		ナンバリング	CE1101	
		担当教員	春田 智明				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列						
【キーワード】		【概要】					
1	コミュニケーション	子どもや人々の生活に、潤いと楽しさをとおした心の元気づくりに生かすレクリエーション理論を学び、レクリエーションを効果的に活用することで人々を支援する方法等を学ぶ。					
2	ホスピタリティー						
3	健康づくり						
4	遊び						
5	楽しさ						
【到達目標】		1. レクリエーション・インストラクターの主旨や役割、レクリエーション支援について理解できる。 2. レクリエーション活動の楽しさを感じる仕組みについて理解できる。 3. 現場に応じたレクリエーション支援のプログラムについて理解できる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
【成績評価の方法】							
成績指標	定期試験		受講態度等			合計	
評価割合 (%)	80		20			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後、模範解答とコメントを返答する。		
【教科書】		
『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会		
【参考書・参考資料等】		
適宜資料配布		
【関連科目】		
「レクリエーション実技」「レクリエーション実習」「子どもと表現」		
【受講心得】		
本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。		
【備考】		
レクリエーション・インストラクター課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 レクリエーションの主旨と、 支援の目的や方法		<学習内容>心の元気づくり <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
2 レクリエーション・インストラクターの 役割		<学習内容>心の元気づくり <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
3 楽しさを通した心の元気づくりと 対象者の心の元気		<学習内容>集団で行う楽しさ <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
4 心の元気と地域のきずな		<学習内容>心の元気づくり <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
5 ライフステージとレクリエーション		<学習内容>社会問題とレクリエーション <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
6 子どもと遊び		<学習内容>社会問題とレクリエーション <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）

7	子どもの生活環境としての レクリエーション		<p><学習内容>子どもの元気づくり</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間）</p> <p><事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）</p>
8	子どもの発達とレクリエーションの活用		<p><学習内容>信頼関係を築く</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間）</p> <p><事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）</p>
9	コミュニケーションと信頼関係づくり		<p><学習内容>内発的な動機付け</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間）</p> <p><事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）</p>
10	良好な集団づくり		<p><学習内容>アイスブレイキング</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間）</p> <p><事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）</p>
11	自主的、主体的に楽しむ力を育む レクリエーション活動		<p><学習内容>対象者に応じたプログラム</p> <p><事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間）</p> <p><事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）</p>
12	レクリエーション支援の実施と リスクマネジメント①		
13	レクリエーション支援の実施と リスクマネジメント②		
14	レクリエーション支援の プログラムの立案①		
15	レクリエーション支援のプログラムの立案 ②		

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
レクリエーション実習		春田 智明	1・2	通年	実習	選択	1	
		担当形態	複数教員		ナンバリング	CE1102		
		担当教員	春田智明・豊辻晴香					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列							
【キーワード】		【概要】						
1	レクリエーション支援	<p>これまでに習得した知識もとに、レクリエーションの現場実習を通して具体的な実践・応用方法を学びながら、心の元気づくりを支援できるレクリエーション・インストラクターを目指す。なお、回数と時間数が定められた2種類のレクリエーション実習の両方に取り組む必要がある。</p>						
2	現場実習							
3	レクリエーション事業							
4	ニーズ							
5	心の元気づくり							
【到達目標】		<p>1. 活動現場で実際にレクリエーション支援を行うことで、これまでの学習成果を実践力として定着することができる。</p> <p>2. 対象者の主体性や協調性を引き出しつつ、レクリエーション支援の準備、展開、評価することができる。</p> <p>3. さまざまな立場でレクリエーション支援にかかわることで、ニーズや活用法を理解することができる。</p>						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性	
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	受講態度		提出物			合計		
評価割合 (%)	80		20			100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を適切に活かしながら実践できる。							
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を十分に活かしながら実践できる。							
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれていない実践である。							
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる実践である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。	
【教科書】	
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会	
【参考書・参考資料等】	
適宜資料配布・紹介する。	
【関連科目】	
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」	
【受講心得】	
レクリエーション活動について、日頃より関心を持ち、情報収集に努めること。 本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。	
【備考】	
レクリエーション・インストラクター資格課程必修	
【学習項目】	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
<学習内容>	
当授業は、下記の2種類のレクリエーション実習に対し、それぞれの規定回数および時間数、取り組む必要がある。また、スタッフ参加実習では実習後の「課題レポート」を作成・提出しなければならない。	
①スタッフ参加実習（1回以上／総計6時間以上）	
レクリエーション支援に関する実習に「運営スタッフ」としてかわり、プログラムの計画から実施、評価まで一連の流れを経験することで実践力を身に付ける。当実習は、終了後に必ず課題レポートを作成し提出する。	
②事業参加実習（2回以上／総計3時間以上）	
レクリエーション支援を行う現場に「参加者」としてかわることで、地域において実施されているレクリエーション活動のニーズを理解し、技術や活動法の知識を深める。	
<事前学習> それぞれの実習内容に関して事前に調べ学習をしておくこと。（1.0時間）	
<事後学習> 授業で習得したことを日常でチャレンジしてみること。（1.0時間）	
スタッフ参加実習後は、既定のレポートを作成・提出すること。（1.5時間）	